中西Ⅰ遺跡・蛇ヶ崎城(谷地館)跡発掘調査報告書

陸前高田市文化財調査報告　第36集

岩手県陸前高田市教育委員会

中西Ⅰ遺跡・蛇ヶ崎城 (谷地館) 跡
発掘調査報告書

２０２０

岩手県陸前高田市教育委員会

中西Ⅰ遺跡・蛇ヶ崎城（谷地館）跡

なかにしいちいせき　じゃがさきじょう　やちだてあと

発掘調査報告書

２０２０

岩手県陸前高田市教育委員会

序

陸前高田市は、岩手県の東南部に位置し、三陸海岸特有の入り組んだリアス式海岸と北上山系の山々に囲まれた温暖な地です。海と山からの豊かな恵みは、古来より今日に至るまでこの地に住む人々に大きな幸を与え続けています。

市内には、この自然の恩恵を受け、先人たちが生活を営み、文化を育んできた証である縄文時代から近世に至るまでの約２７０ヶ所の遺跡が残されています。

これらの遺跡は、現在の陸前高田市の成り立ちを考える上で、貴重な文化財であり、後世に残し、伝えていくことは、現代を生きる私たちに課せられた責務です。

市教育員会は、この責務を果たすべく各種開発行為でやむを得ず失われてしまう遺跡に対し、発掘調査による記録保存を行っています。

今回報告する中西Ｉ遺跡と蛇ヶ崎城跡の調査は、東日本大震災により被災した個人の住宅を再建するための工事に先立って実施しました。

報告書刊行までにご協力いただいた多くの方々に深く御礼申し上げるとともに、本書が市民の皆様をはじめ多くの方々に広く活用され、文化財保護や学術研究に役立てていただければ幸いです。

令和２年 12 月

陸前高田市教育委員会

教育長　大久保　裕　明

例　言

1．本報告書は、平成 23 年度に実施した岩手県陸前高田市小友町字中西 32 番地に所在する中西Ⅰ遺跡と平成 26 年度に実施した岩手県陸前高田市小友町字谷地館 122 番地 1 に所在する蛇ヶ崎城跡（谷地館）の発掘調査成果に、平成 28 年度に小友町字谷地館 188・189 番地 1 で実施した試掘調査の成果を加えとりまとめたものである。

2．調査は個人専用住宅建築に伴う事前調査で、実施各年度の復興交付金対象事業である。調査は、岩手県教育委員会の指導を受け事業者と陸前高田市教育委員会との協議を経て、陸前高田市教育委員会が調査を実施した。

3．各調査の調査期間と面積は次のとおりである。

中西Ⅰ遺跡

期間：平成 23 年 7 月 25 日～ 8 月 11 日　　面積：約 210㎡

蛇ヶ崎城跡（平成 26 年度）

期間：平成 26 年 10 月 16 日～ 11 月 21 日　　面積：約 974㎡

蛇ヶ崎城跡（平成 28 年度）

期間：平成 28 年 6 月 3 日～ 7 月 11 日　　面積：56㎡

4．平成 23 年度の中西Ⅰ遺跡発掘調査は、遠藤優子（当教育委員会嘱託員　発掘調査員）、平成 26 年度の蛇ヶ崎城跡発掘調査は、遠藤勝博 (当教育委員会嘱託員　発掘調査員) がそれぞれ担当した。

5．平成 28 年度の蛇ヶ崎城跡試掘調査は、増崎勝仁（当教育委員会学芸員）遠藤勝博・村上奈穂子（当教育委員会嘱託員　発掘調査員）が実施した。

6．中西Ⅰ遺跡の遺物実測・写真撮影を含む整理作業は、平成 30 年度に佐藤典邦（当教育委員会学芸員）が行い、 報告書作成は令和 2 年度に増崎勝仁（当教育委員会学芸員）が行った。

蛇ヶ崎城跡の発掘調査成果についての整理作業と報告書原稿執筆は、平成 30 年度に鈴木めぐみ (当教育委員会嘱託員　発掘調査員) が、試掘調査成果の原稿執筆と報告書全体の編集は、令和 2 年度に増崎勝仁 (当教育委員会　学芸員) が行った。

7．掲載した土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著「新版標準土色帖」によった。

8．発掘調査記録および出土遺物は、陸前高田市教育委員会において保管している。

9．陶磁器の鑑定は、大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館名誉顧問）が行った。

本文目次

序
例言
目次

中西Ⅰ遺跡

Ⅰ　調査に至る経過・・3
　1　調査の経緯・・・3
　2　調査体制・・3

Ⅱ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　1　遺跡の立地と地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　2　周辺の遺跡・・・3

Ⅲ　調査成果・・・5
　1　調査の概要・・・5
　2　出土遺物・・5

Ⅳ　まとめ・・5

蛇ヶ崎城（谷地館）跡

Ⅰ　調査に至る経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　1　調査の経緯・・11
　2　調査体制・・・11

Ⅱ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
　1　遺跡の立地と地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
　2　周辺の遺跡・・12

Ⅲ　調査と整理について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

Ⅳ　調査成果・・22
　1　基本層序・・・22
　2　検出遺構・・・22
　3　出土遺物・・・23

Ⅴ　まとめ・・・37

附編：平成 28 年度の試掘調査の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

抄録

挿図・表目次

中西Ⅰ遺跡

図１　中西Ⅰ遺跡の位置と周辺の遺跡・・・・・4
図２　中西Ⅰ遺跡調査区域・・・・・・・・・・6
図３　中西Ⅰ遺跡試掘トレンチ・・・・・・・7
図４　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・8

蛇ヶ崎城（谷地館）跡

図１　遺跡の位置・・・・・・・・・・・・・・・14
図２　蛇ヶ崎城跡周辺の地形分類図・・・・・・15
図３　陸前高田市内の城館跡・・・・・・・・・16
図４　蛇ヶ崎城跡周辺の遺跡と地形・・・・・・18
図５　蛇ヶ崎城跡縄張り推定図・・・・・・・・・19
図６　平成 26・28 年度蛇ヶ城跡調査範囲・・・・20
図７　調査範囲と縄張りの重ね図・・・・・・・20
図８　蛇ヶ崎城跡　遺構配置図・・・・・・・・24
図９　調査区東・西壁断面図・・・・・・・・・・25
図 10　SK01・02 土坑・・・・・・・・・・・・26
図 11　SA01 柱 穴 列・・・・・・・・・・・・27
図 12　SP001 ～ 044 柱穴　断面図・・・・・・28
図 13　SP045 ～ 071・073 ～ 077・079 ～ 097
　　柱穴　断面図・・・・・・・・・・・・29
図 14　SP098 ～ 113・116 ～ 143・145・146
　　柱穴　断面図・・・・・・・・・・・・・30
図 15　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・36

表１　陸前高田市内の城館跡・・・・・・・・・17
表２　SP 柱穴土層注記表・・・・・・・・31 ～ 35

写真・図版目次

中西Ⅰ遺跡

写真１　中西Ⅰ遺跡（調査前　北から）・・・・・6
写真２　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・8

蛇ヶ崎城（谷地館）跡

図版１　蛇ヶ崎城跡全景・調査終了全景
図版２　調査終了近景
図版３　調査前状況・SA01 柱穴列・SP 柱穴
図版４　SP 柱穴
図版５　出土遺物 1
図版６　出土遺物 2

中西Ⅰ遺跡

Ⅰ　調査に至る経過

１調査の経緯

平成 23 年 5 月 27 日、陸前高田市小友町字中西 32 番地（字西之坊地内）ほか 7 筆において、震災にかかる宅地造成工事が計画され、事業者から文化財保護法第 93 条第 1 項に基づき「埋蔵文化財発掘の届出」が、市教育委員会に提出された。

市教育委員会は直ちに試掘調査を行い、その結果、試掘トレンチの 2 か所において遺構である可能性のある黒色土の堆積と土師器・須恵器の破片を検出した。試掘調査状況を添え県教育委員会へ進達し、遺構が存在する可能性がある区域に限って本調査を実施する旨の指示を受けた。

指示により事業者と協議し、平成 23 年 7 月 25 日から 8 月 11 日まで、区域内の遺構が存在する可能性の高い地点に限定し調査を実施した。

２　調査体制

平成 23 年度の現地調査

調査主体　陸前高田市教育委員会
教育長職務代理者　金　賢治
事務局　吉田幸喜（生涯学習課社会教育主事）
菅野大樹（同課主事）
調査担当　遠藤優子（同課嘱託　発掘調査員）
発掘作業員　荒木美智代　戸羽由美　村上奈穂子　村上紀子　山谷富助

平成 30 年度の室内整理

調査主体　陸前高田市教育委員会
教育長　金　賢治
総括　戸羽良一（教育次長兼生涯学習課長）
事務局　熊谷　賢（同課副主幹）
曳地隆元（同課学芸員）
担当　佐藤典邦（同課学芸員）

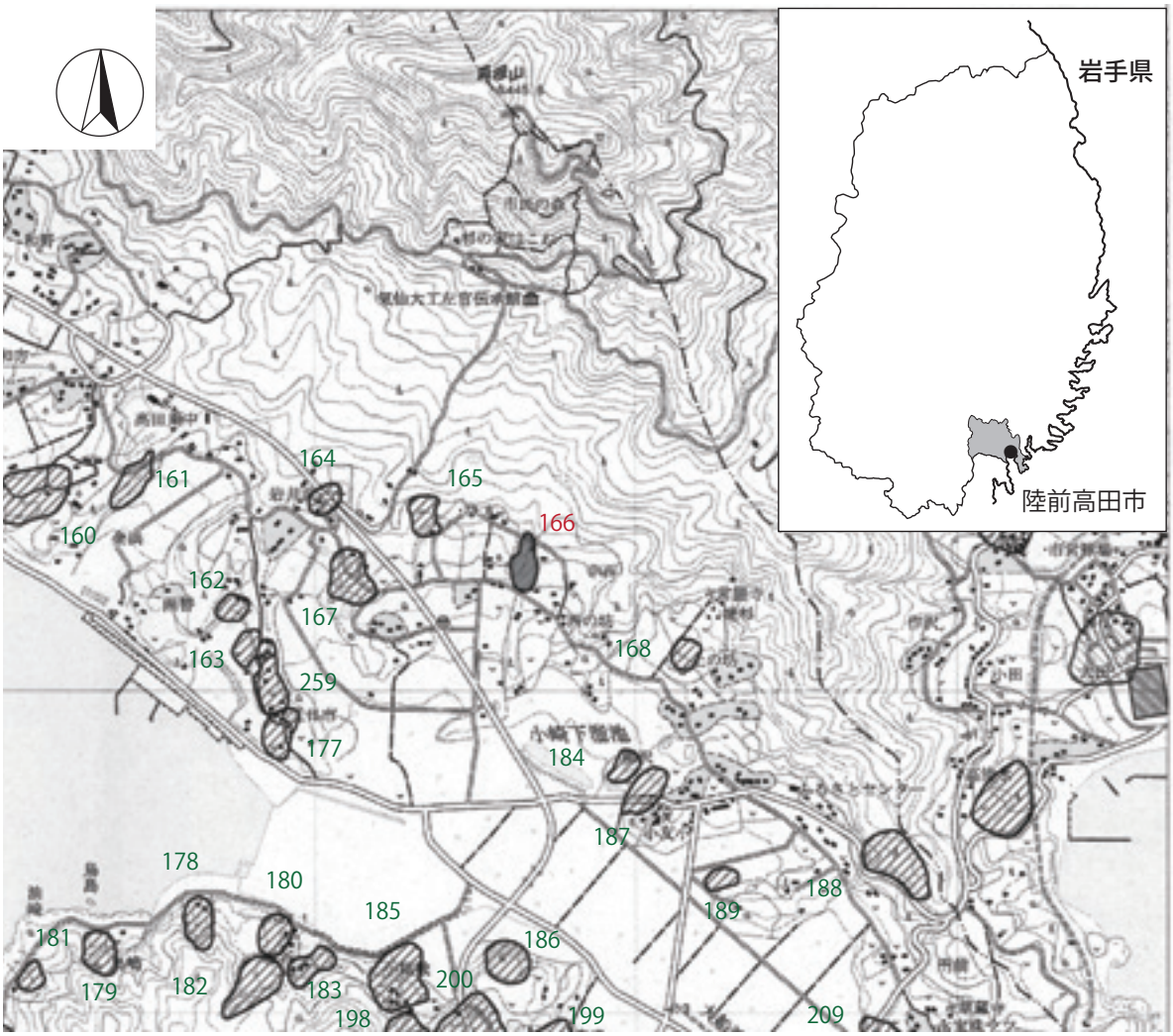
Ⅱ　遺跡の立地と環境

１　遺跡の立地と地理的環境（図１）

中西Ⅰ遺跡 (166) は、岩手県陸前高田市小友町字中西内（字西之坊地内）に所在する。遺跡は、箱根山の裾野の標高約 50 ～ 40m を測る緩やかな南向き斜面に広がる。かつては果樹園として利用され、その後、畑地と栗畑として耕作されていた。縄文土器片・石器等が表面採集され縄文時代遺物散布地とされる。

２　周辺の遺跡（図１）

周辺には、西に土師器が散布して集落跡とされる松山前遺跡 (167) や土師器が散布する西之坊遺跡 (165)、東に縄文時代後期の土器が散布している中西Ⅱ遺跡 (168) が所在する。また、小友町字茗荷には土師器・須恵器と伴に毛抜型透蕨手刀が出土した岩井沢遺跡 (164) がある。



番号	遺跡名	時代	種別 (散布遺物)	番号	遺跡名	時代	種別 (散布遺物)
160	堂の前貝塚	縄文	貝塚・集落跡	182	塩屋Ⅱ		散布地 (土師器)
161	金浜	奈良・平安	散布地	183	塩屋Ⅲ	縄文	散布地
162	両替Ⅰ	奈良・平安	散布地	184	後谷地	縄文	散布地
163	両替Ⅱ	縄文	散布地	185	小屋敷	縄文	散布地
164	岩井沢	縄文・古代	集落跡	186	浦の前	縄文	散布地
165	西之坊	縄文・奈良・平安	散布地	187	両替館	中世	城館跡
166	中西Ⅰ	縄文	散布地	188	内館	中世	城館跡
167	松山前		集落跡 (土師器)	189	財当	縄文	散布地
168	中西Ⅱ	縄文	散布地	198	沢辺Ⅱ	縄文	散布地
177	三日市	縄文・奈良・平安	集落跡	199	森崎Ⅰ	奈良・平安	散布地
178	鳥嶋Ⅰ		散布地 (土師器)	200	雲南	縄文	集落跡
179	鳥嶋Ⅱ		散布地（土師器）	201	森崎Ⅱ	奈良・平安	散布地
180	塩屋Ⅰ	縄文	散布地	209	門前貝塚	縄文	貝塚
181	鳥嶋Ⅲ	縄文	散布地	259	三日市Ⅱ	縄文・奈良	散布地

＊番号は、『陸前高田市遺跡分布図』の「遺跡・埋蔵文化財リスト」の登録番号

図１　中西Ⅰ遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/25000)

Ⅲ　調査成果

１　調査の概要 (図２・3、写真１）

調査は、重機による試掘調査から開始し遺構の有無を確認した。各試掘調査トレンチでは、表土層から地山上層に至るまでシルト土の混入が認められ、果樹園造成や耕作による攪乱が調査区全域にわたり及んでいることが判明した。

本調査地点は試掘調査で遺構の可能性のある黒色土堆積が見られた２か所と試掘時に耕作物があり調査ができなかった地点に限り、任意にトレンチを設定し人力で掘削、遺構検出後、精査する事とした。

調査を実施した３地点ともに、浅く不明瞭な土坑や時期不明の焼土跡が検出されたが、いずれも伴出遺物もなく遺構と確定するには至らなかった。調査区域内に散在する遺物包含層である黒色土や耕作で攪乱された土層からは、土師器・須恵器の破片が少量出土した。調査面積は、開発面積 2,876㎡のうちの 210㎡である。

２　出土遺物（図４、写真２）

１は内面に黒色処理と斜位ヘラミガキが施された土師器坏である。ロクロにより成・整形され、切り離し技法は回転糸切無調整である。２はロクロにより成・整形された土師器坏である。切り離し技法は回転糸切無調整である。内面には斜位ヘラミガキがみられる。３は内面に黒色処理と斜位ヘラミガキを施された土師器高台付坏である。ロクロにより成・整形されている。高台の断面は大きく「ハ」字状に広がる。

４・５は接合しないが、同一個体と推定される土師器小形甕である。ロクロで成形され、外面は縦方向のヘラケズリ、内面は斜めヘラナデが施される。６は須恵器広口瓶の口縁部破片である。内面に灰釉が見られる。

これらの遺物は、各調査区の攪乱層及び遺物包含層から出土した。その特徴から９世紀後半に比定される。

Ⅳまとめ

試掘調査によって検出された焼土跡や土坑は、伴出遺物が無く構築時期を確定できず遺構とする確証が得られなかった。いずれの調査区も果樹園の造成や畑地の耕作による攪乱が著しく、遺物包含層とみられる黒色土も部分的に残存しているのみで、出土遺物も原位置を保っているとは思われない。

市内での出土が稀な９世紀代の土師器は、調査地付近に同期の集落跡が存在した可能性を示している。

写真１　中西Ⅰ遺跡（調査前　北から）

図２　中西Ⅰ遺跡調査区域

図 3　中西 I 遺跡試掘トレンチ

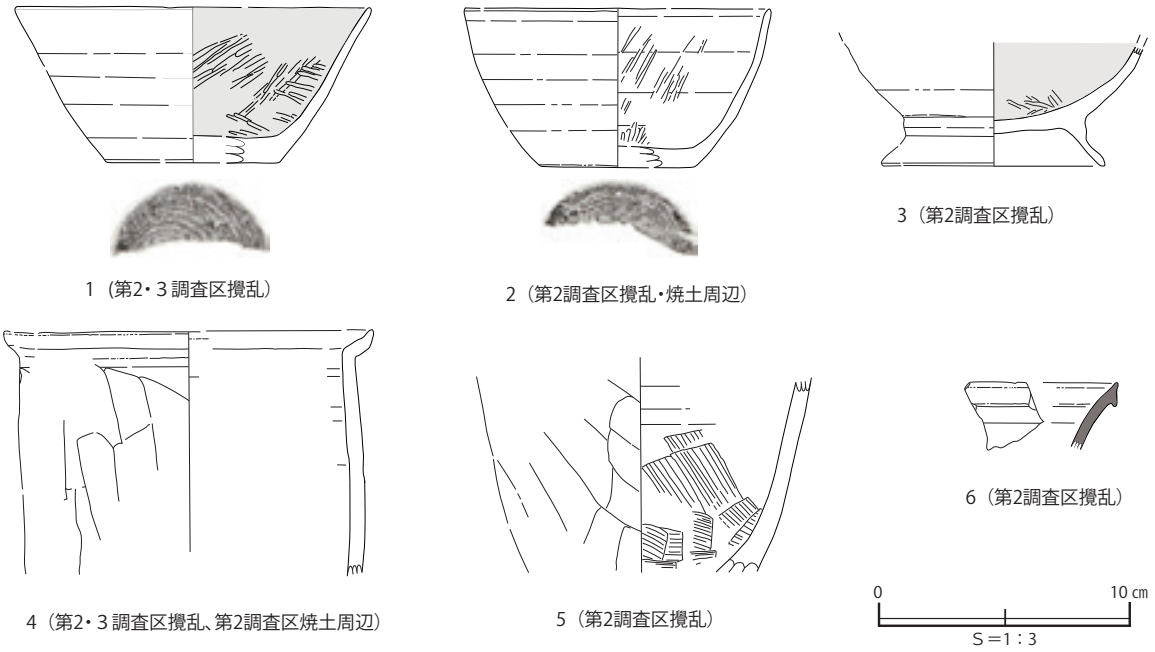


図４　出土遺物

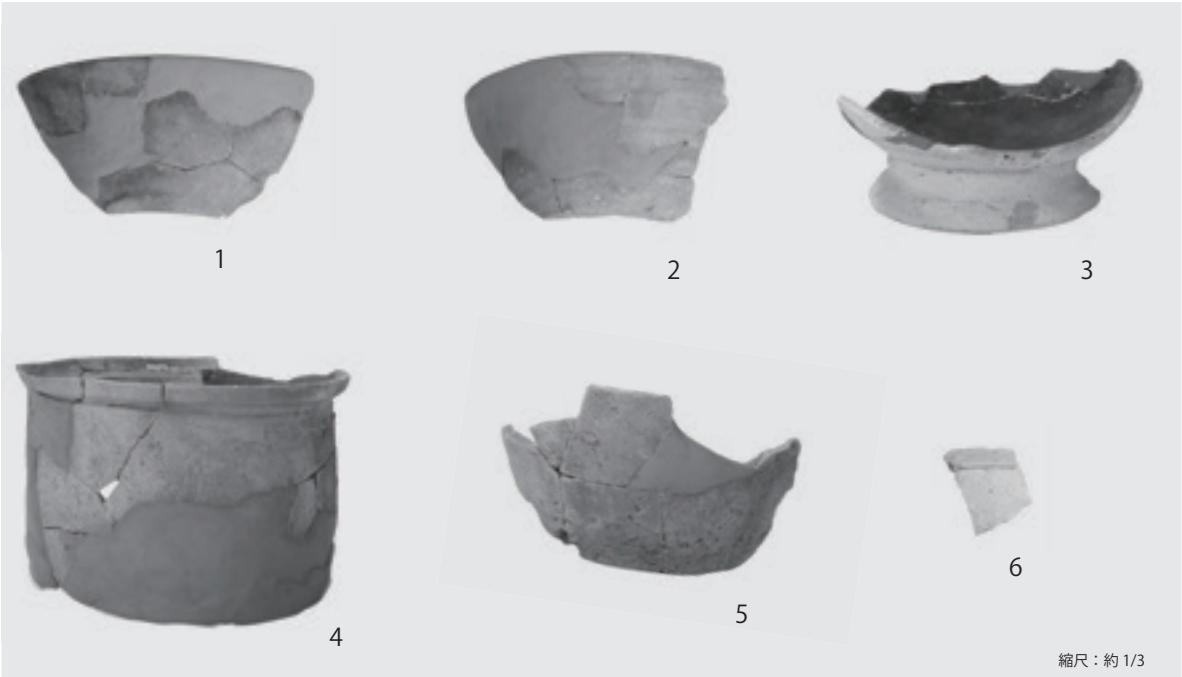


写真２　出土遺物

蛇ヶ崎城（谷地館）跡

Ⅰ　調査に至る経過

1　調査の経緯

今回の調査対象事業は、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波により被害を受けた個人の住宅再建事業である。

平成 26 年 9 月 18 日、事業者から陸前高田市教育委員会に、陸前高田市小友町字谷地館 122 番 1 における個人専用住宅建築に先立ち文化財保護法第 93 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘届が提出され、直ちに教育委員会は、平成 26 年 9 月 25 日付陸高教生第 415 号で、岩手県教育委員会に進達した。これに対し平成 26 年 9 月 30 日付教生第 3-289 号で、岩手県教育委員会から事業者に対し工事着手前に試掘調査が必要である旨を通知があった。

教育委員会は事業者と協議のうえ、平成 26 年 10 月 16 日から試掘調査を開始し遺構の広がりを確認した。

試掘調査の結果、事業地全域 974㎡対象として 17 日から本調査に切替え 11 月 21 日まで発掘調査を行った。

2　調査体制

平成 26 年度の現地調査

調査主体　陸前高田市教育委員会
教育長　山田市雄
総括　大久保裕明 (生涯学習課長)
事務局　高橋一成 (同課長補佐)
吉田志真 (同課生涯学習係長)
桐木　亮（同課主任主事　京都市より派遣）
曳地隆元（同課学芸員）
調査担当　遠藤勝博 (同課嘱託員　発掘調査員)
発掘作業員　阿部　亘　和泉清明　及川亜紗美　及川惠美子　菅原とみ子　菅野貴恵　菅野由美子
後藤美知香　佐々木栄子　佐々木道子　鈴木貞子　高橋景奈　畑野義久　戸羽由美
三嶋登喜子　村上奈穂子　村上紀子　村上由美子　横澤桐子　山谷富助

平成 30 年度の室内整理

調査主体　陸前高田市教育委員会
教育長　金　賢治
総括　戸羽良一 (教育次長兼生涯学習課長)
事務局　熊谷　賢 (同課副主幹)
曳地隆元 (同課学芸員)
担当　鈴木めぐみ (同課嘱託員　発掘調査員)

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　遺跡の立地と地理的環境（図１・２）

遺跡は、岩手県陸前高田市小友町字谷地館地内に所在する。遺跡の所在する小友町は大船渡市と隣接する市域の最東端に位置し、大船渡市末崎町の門の浜湾、南に陸前高田市広田町の大野湾を眼下に望む、舌状の小さな岬で「蛇ヶ崎」といわれている。遠望した岬の姿が､蛇が頭をもたげているのに似ていることから、その地名が生まれた。

遺跡範囲は、その先端部の丘全体となる。標高約 34 mを頂きとし、北側は急傾斜の断崖となり南側は比較的傾斜が緩く狭い平場もあり、現在の住宅・港施設等は南側に集中する。

対象地は、南辺の海岸から直線距離で約 70 mの所にあり、標高約 26 m～ 22 mの緩やかな南向き斜面となる。地元の方からの聞き取りでは、「かつては郭の段が明確で、現在とは様相が違う」「西側の一段低い部分は、かつて土取りをした」等、周辺の宅地化とともに、近現代の地形改変があった事もうかがわれる。

遺跡の南側には箱根山（標高 446.8 m）がそびえ、そこから南東方向に伸びる尾根が海まで突き出す丘陵地形となる。岬の端には鶴島、亀島、海鼠岩などの大小の島が散在し、国指定天然記念物「蛇ヶ崎」となっている。蛇ヶ崎付近から大船渡市にかけては下部白亜紀の硬質砂岩と頁岩からできており、これらの岩層が海蝕作用を受けて海蝕崖となったり、岩礁と岬、岩礁間の狭い水道、さらには大規模な海蝕洞や潮吹穴もみられるなど典型的な海蝕地形を構成している。

2　周辺の遺跡（図３・４）

陸前高田市には縄文時代以降の遺跡が 267 遺跡確認されている。このうち貝塚は 15 箇所周知されており、広田湾に面して分布する。代表的な貝塚として、国指定史跡の中沢浜貝塚（広田町）がある。広田半島の突端近くに位置し、縄文時代前期～晩期・弥生時代の遺物が確認されている。貝層からは岩礁性や砂泥性二枚貝・巻貝・ウニ・魚類・獣骨等多種多様な遺存体や骨角器が出土し、縄文人骨も現在までに 30 体以上確認されている。また、全国的に著名な貝塚として、晩期の籃胎漆器を出土した獺沢貝塚（小友町）や東北の縄文時代後期初頭門前式土器の標識遺跡とされている門前貝塚（小友町）がある。そこから北西に 3 km 堂の前貝塚（米崎町）からは、昭和期や東日本大震災の住宅再建事業に係る発掘調査で、縄文中期末から後期前葉にかけての良好な貝層・遺構・遺物の確認がされている。広田湾を挟んだ対岸に位置する牧田貝塚（気仙町）からは、県内でも出土例の少ない縄文時代前期前葉の遺物がまとまって出土している。

過去に発掘調査・報告がされた遺跡を概観すると、中沢浜貝塚をはじめとする貝塚の調査、遺物を多量に出土した堂の前貝塚・雲南遺跡（小友町）、特徴的な配石を有する門前貝塚等、縄文各期の痕跡がみられる。

多くの遺跡で複数時期の遺物がみられ、長期間の生活が営めた当時の恵まれた環境がうかがえる。

雲南遺跡では、縄文時代早期～後期・弥生時代の遺物が確認され、特に縄文時代早期の貝殻文土器は市内で最も古い遺物と思われ、黎明期の遺跡の一つといえよう。貝畑貝塚（高田町）からは縄文時代中期と奈良時代の遺構・遺物が確認されている。川内遺跡（米崎町）では縄文時代晩期と弥生時代の遺物が、愛宕下Ⅱ遺跡（気仙町）からは縄文時代前期と後期・弥生時代・平安時代の遺物が出土しており、北海道の続縄文期とされる後北式土器がほぼ一個体分出土している。友沼Ⅲ遺跡（横田町）も縄文時代前期と中期･弥生時代･平安時代の遺物が確認されている。

また、小泉遺跡（高田町）から出土した「厨」をはじめとする大量の墨書土器は、古代の気仙郡内に官衙が存在した可能性を示し注目を集めた。

気仙地区では縄文時代の発掘例は数多いが、古代の発掘事例が内陸部に比べて非常に少ない。

その中で、陸前高田市内での発掘調査は、沿岸地域の中では古代遺跡の調査例が多く、縄文～古代までの時代を網羅した成果が報告されている。

さらに市域には、今回の調査対象となった蛇ヶ崎城と同時代の中世城館が、現在までに 55 箇所のが確認されている。近年、城館跡の発掘調査は、花館跡（高田町）や高田城跡（高田町）等で行われ、史料には記載されない多くの遺物が報告されている。

調査報告された城館を含む内陸部の多くの城館跡は、街道・河川沿いの高台に占地している。

海岸地域には、海に面した崖上や小半島の地形を巧みに利用した城館がある。代表的な館跡は矢館･東館･小館･高館（広田町）、米崎城（米崎町）、二日市館･要害館（気仙町）、近隣として末崎城（大船渡市末崎町）である。その構造は、内陸側に大きな堀や段状の施設を造成し防御とする。それぞれの城館に構築時期の違いはあるものの、三陸沿岸特有の半島地形を利用した海の要塞が点在していた状況がうかがわれる。

蛇ヶ崎城主に関しては、陸前高田市史第三巻沿革編（上）によれば、初代は加美郡宮崎城主・千葉重胤の三男広次によって築かれたと云われる。葛西系の千葉氏となり、その系譜は以下の通りである。

初代・広次（永和元年（1375 年）七月九日卒） ― 二代・顕次（応永七年（1400 年）十一月卒）
― 三代・顕常（応永十一年（1404 年）九月卒） ― 四代・信元（永亨七年（1435 年）八月二十八日卒）
・・・十代・信定

また、「至徳元年（1384 年）八月七日、蛇ヶ崎城主及川道光気仙郡小友の華蔵寺寺田を寄進する」と年表に記されている。この道光は三代・顕常であり小友町華蔵寺の開基でもあった。初代・広次以降、十代続くが天正十八年（1590 年）豊臣秀吉の奥州仕置により、葛西氏が没落すると、気仙郡は伊達氏の領地となった。十代・信定は伊達家の家士となり葛西紀伊と改名、桃生郡飯ノ川の地を賜った。蛇ヶ崎城には東山中川城主及川掃部が居住したが、後に東磐井猿沢に移り蛇ヶ崎城は廃城となった。

図１　遺跡の位置

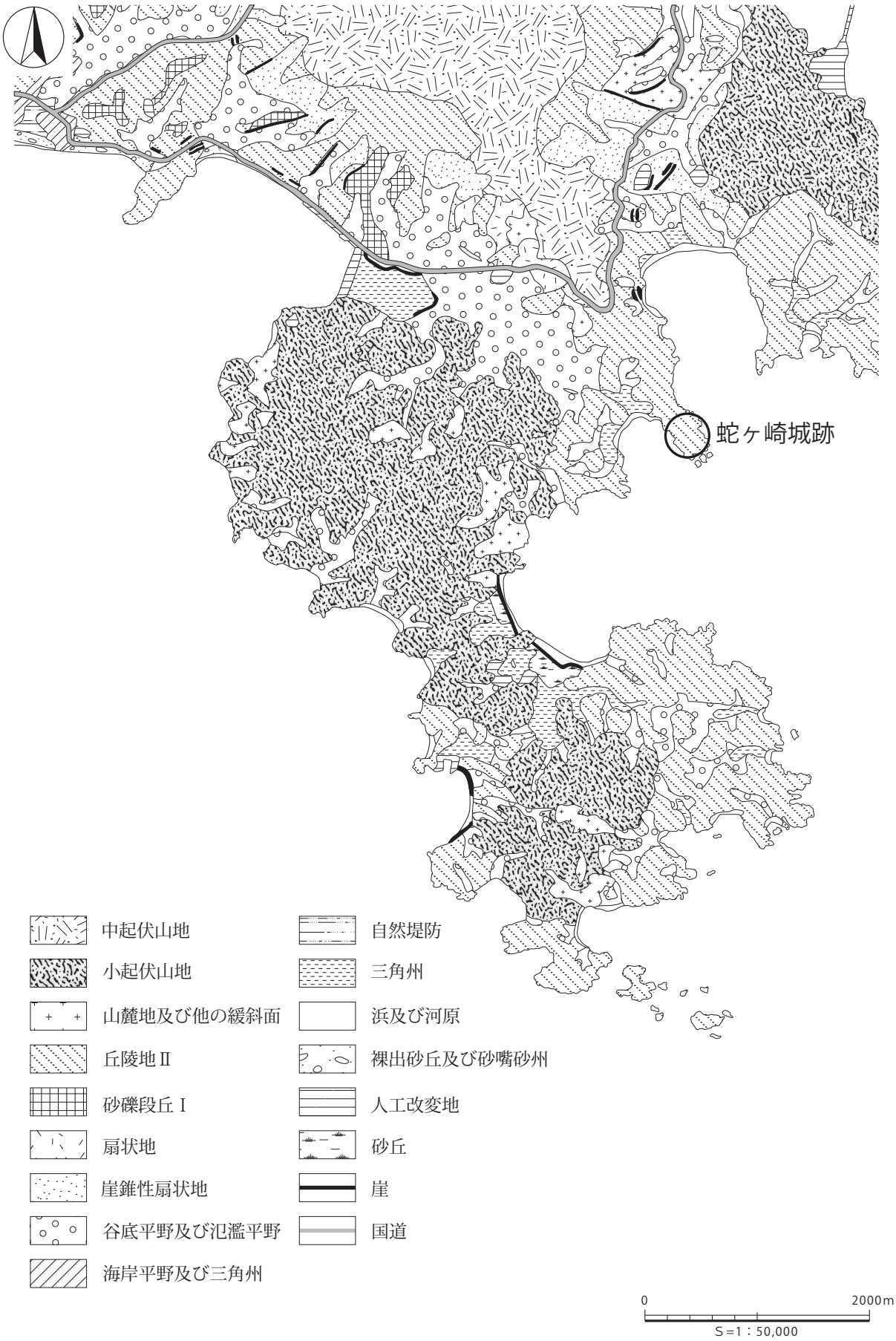


図２　蛇ヶ崎遺跡周辺の地形分類図

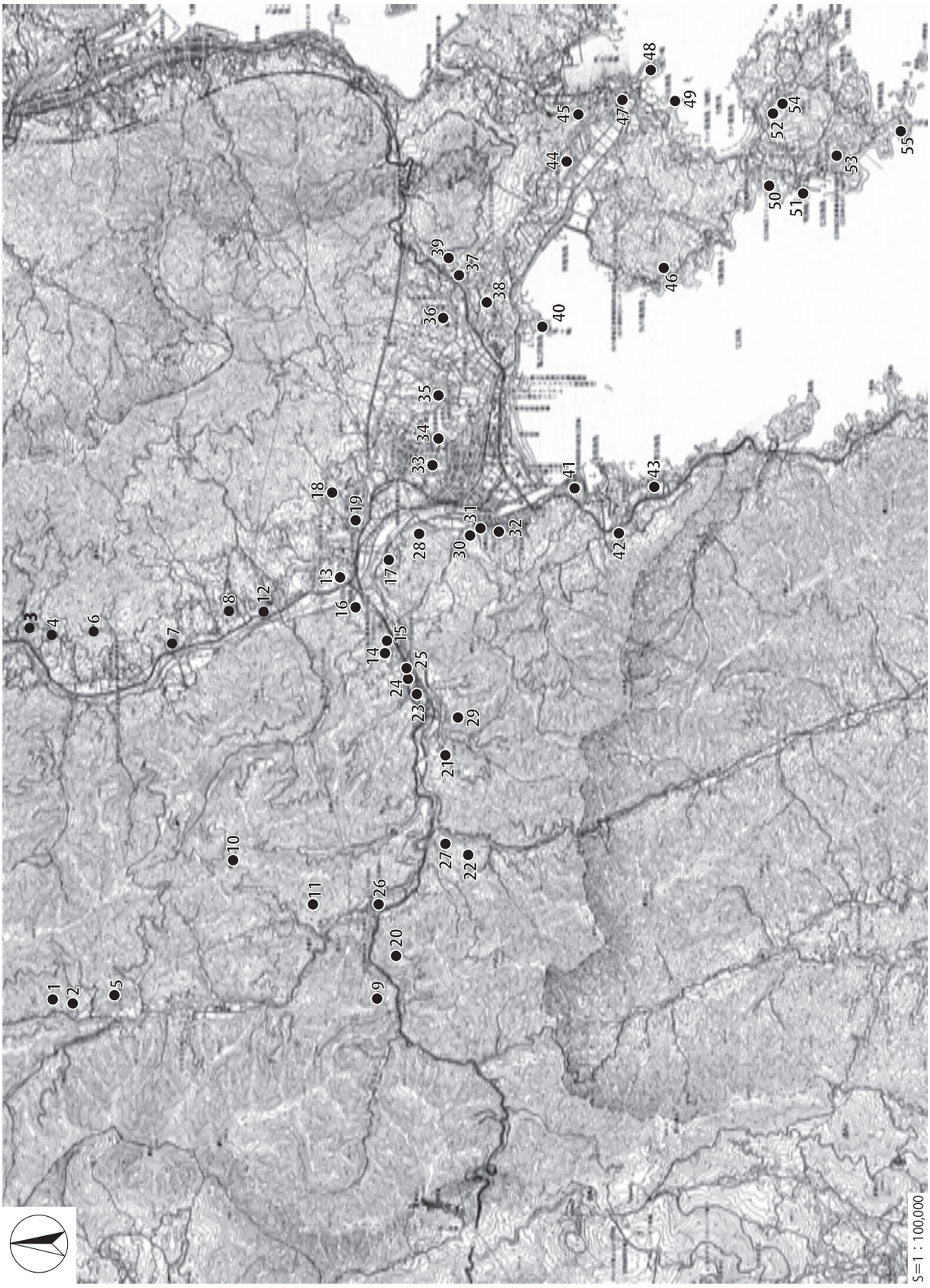
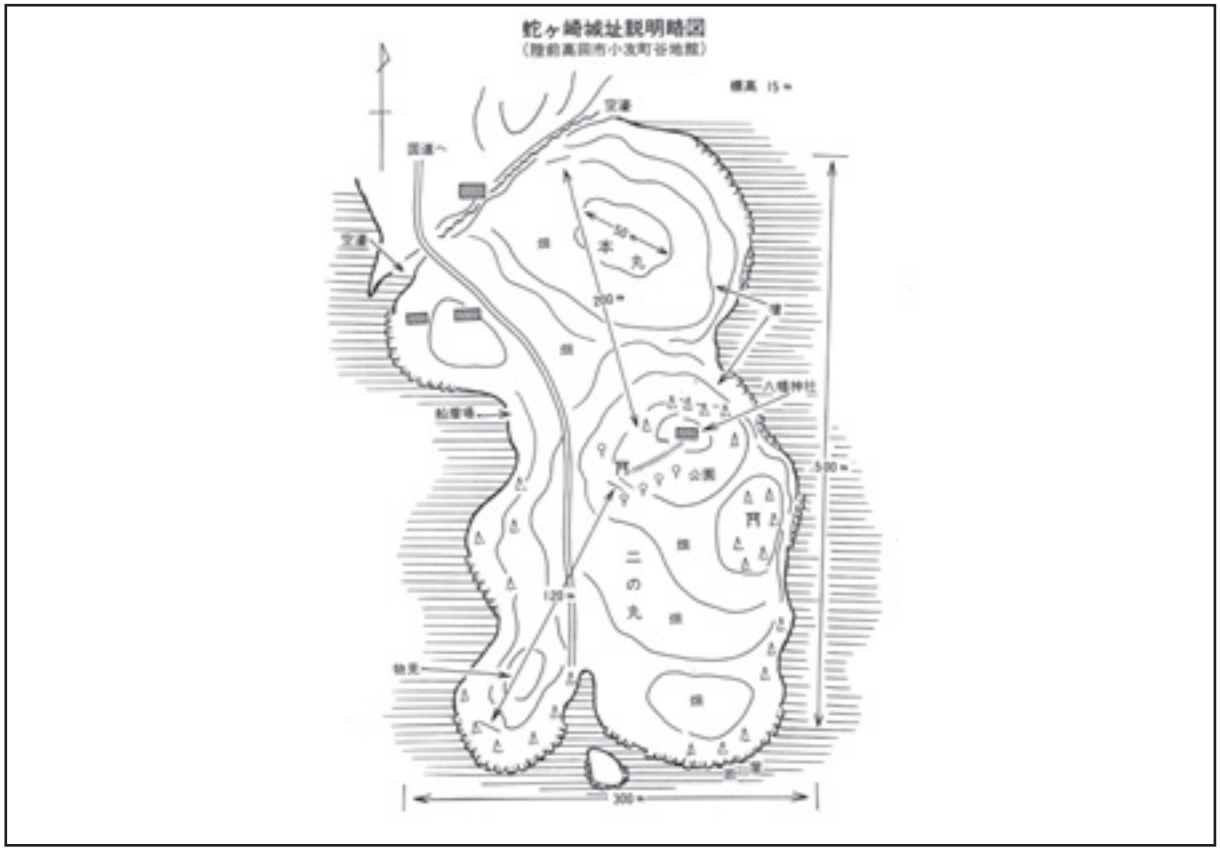


図 3　陸前高田市内の城館跡

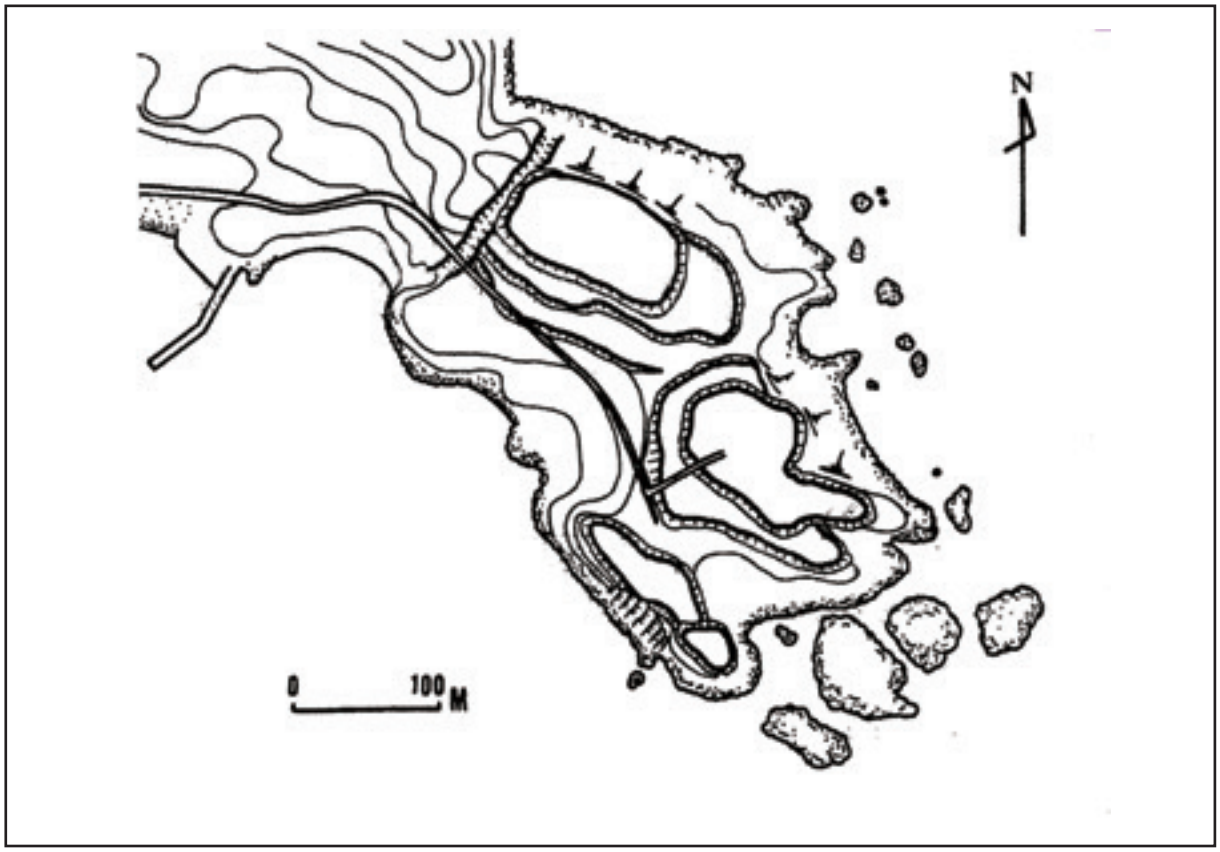
表 1　陸前高田市内の城館跡　（図 3 に対応）

No.	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地
1	的場館	城館跡	中世	空堀	矢作町字的場
2	三の戸館	城館跡	中世	空堀、主郭	矢作町字三の戸
3	南行館（弦根館）	城館跡	中世	空堀、主郭、腰郭	横田町字南行
4	関根館	城館跡	中世	空堀、主郭、腰郭	横田町字久連坪
5	目貫館	城館跡	中世	空堀、主郭	矢作町二田野
6	あかまい館	城館跡	中世	腰郭、土塁	横田町字志田実
7	三日市館	散布地・城館跡	縄文・中世	縄文土器（中期）、空堀、郭	横田町字三日市
8	本宿館（横田城）	城館跡	中世	空堀、主郭、二の郭、土塁	横田町字本宿
9	日向館	城館跡	中世	平場、郭	矢作町字中平
10	陣ケ森	城館跡	中世		矢作町字西越
11	番ケ沢館	城館跡	中世	二重空堀、主郭	矢作町字二又
12	壷館（竹駒城・坪城）	城館跡	近世	空堀、主郭、腰郭	竹駒町字下壷
13	古館（府本館）	城館跡	中世	空堀、主郭、腰郭	竹駒町字館
14	外館	城館跡	中世	空堀、土塁、三段腰郭	矢作町字神明前
15	古館（倉主館）	城館跡	中世	空堀、腰郭	矢作町字越戸内
16	廻館	城館跡	中世	平場	矢作町字城内
17	内館（鶴崎館）	城館跡	中世	平場、空堀、主郭、二の郭、腰郭	矢作町字大嶋部・小嶋部
18	金山館	城館跡	中世		竹駒町字細根沢
19	滝の里館（花輪館）	城館跡	近世	腰郭	竹駒町字滝の里
20	大館（大立）	城館跡	中世		矢作町字坂下
21	番館	城館跡	中世		矢作町字梅木
22	館柵	城館跡	中世		矢作町字坂下
23	東角地館	集落跡・城館跡	縄文・中世	縄文土器、土師器、カブト、人骨、空堀	矢作町字東角地
24	片地家館（古館・高屋敷館）	城館跡	近世	空堀	矢作町字片地家
25	古館	城館跡	近世	縄文（中期）・中世・近世	矢作町字片地家
26	フン館（古館）	城館跡	中世	主郭、空堀	矢作町字山崎
27	八幡館	城館跡	中世	平場、土塁	矢作町字金屋敷
28	陣ケ森	散布地・城館跡	中世	空堀、腰郭	気仙町字神崎
29	小山館	城館跡	中世	土塁	矢作町字味米
30	廻館	城館跡			気仙町字中ケ谷
31	東館（今泉古館）	城館跡	中世	空堀、腰郭	気仙町字町裏
32	館ケ脇館	城館跡	中世	空堀	気仙町字内野
33	八幡館（高田城）	城館跡	中世	主郭、二の郭、空堀、腰郭	高田町字本丸
34	古泉館（東館）	城館跡	中世	空堀	高田町字東和野
35	飯森場（花館）	散布地・城館跡	中世		高田町字飯森場
36	中山館	城館跡	中世	空堀	米崎町字野沢
37	中陣（高木城・日高城）	城館跡	中世	平場、空堀	米崎町字樋の口
38	脇沢館（島崎城）	城館跡	中世	空堀、主郭、二の郭	米崎町字脇の沢
39	一起館（一騎館）	城館跡	中世	二郭	米崎町字道の上
40	米崎城（浜田城）	城館跡	中世	空堀、腰郭、土塁	米崎町字館
41	二日市館（八幡館・鵜飼館）	城館跡	中世	主郭、腰郭、空堀、二の郭	気仙町字二日市
42	上長部館	城館跡	中世	空堀	気仙町字牧田
43	要谷館	城館跡	近世	主郭、腰郭	気仙町字要谷
44	両替館	城館跡	中世	主郭、空堀	小友町字両替
45	内館	城館跡	中世	段	小友町字柳沢
46	長茂館（眺館）	散布地・城館跡	縄文・中世		広田町字長船崎
47	谷地館	城館跡	縄文	土器、フレーク	小友町字谷地前
48	蛇ケ崎城（谷地館）	城館跡	中世	空堀、腰郭、平場、主郭、二の郭	小友町谷地館
49	矢館	城館跡	中世	腰郭	広田町字長洞
50	高館	城館跡	中世	空堀、主郭、腰郭	広田町字大久保
51	小館	城館跡	中世	郭	広田町字泊
52	花館	城館跡	中世	郭	広田町字大久保
53	八幡館	城館跡	中世	郭、平場	広田町字泊
54	平館	城館跡	中世	空堀、腰郭、主郭	広田町字平畑
55	東館	城館跡	中世	空堀	広田町字集

図４　蛇ヶ崎城跡周辺の遺跡と地形



「仙台領内古城・館」（1972）紫桃正隆による縄張り図



「岩手県中世城館分布調査報告書」（1986）岩手県教育委員会による縄張り図

図５　蛇ヶ崎城縄張り推定図

図 6　平成 26・28 年度蛇ヶ崎城跡調査範囲

※赤線部分は図 5 にて使用した、「岩手県中世城館分布調査報告書」（1986）岩手県教育委員会中の図を地形を基準に照合した。

図 7　調査範囲と縄張りの重ね図

Ⅲ　調査と整理について

・測量基準点は、計２点を設置。得られた座標値（世界測地系）は、以下のとおりである。
　基準点１：（X、Y）＝（－ 112,421.631、76,307.897）　標高：22.534 m
　基準点２：（X、Y）＝（－ 112,401.961、76,320.809）　標高：26.699 m

・表土除去は重機を使用し検出面まで行い、その後の精査等は人力で行った。

・グリッドの設定はなく、遺物の取上げは、調査区内柱穴の位置を基準としている。

・調査図化記録は、平面は平板測量によって、1/100 スケールで土坑・溝跡・柱穴の上端のみの記録、1/20 スケールで、各柱穴と調査区西壁・東壁面の断面実測である。写真はデジタルカメラを使用して各柱穴の完掘と調査終了の際に株式会社　タックエンジニアリングによる空中写真を撮影している。
また、調査員による現場調査の詳細な調査記録があり、これらを活用した。

・遺構配置図の等高線は、段状の地形改変を表すため、壁断面と柱穴断面の標高、空撮写真・現地調査記録等から復元・作図した。

・現地調査時にはＳＰ柱穴とＳＫ土坑の遺構のみであったが、調査記録等から柱穴配置が予想されるＳＡ 01 とＳＤ 01 溝状遺構を後日整理時に追加した。

・表２の、径と深さは図 12 ～ 14 から測定したものであり、最大値を表すものではない。

・ＳＫ 02 の２層の混土貝層の貝種は、調査時の観察記録による。

・遺物は、陶磁器５点、石製品１点、石器２点、古銭 11 枚、鉄滓４点であり、陶磁器・古銭・石器を全て掲載した。

・遺構のスケールは 1/50・1/60 を基本とし各図版にスケールを付した。遺物のスケールは陶磁器・古銭は 1/2、石器は 1/3 とした。遺物写真のスケールは任意である。

Ⅳ　調査成果

1　基本層序（図９）

表土（厚さ 0.2 m前後）の直下で地山、あるいは遺構検出面となる。地山の状況として、標高の高い上段から中段東側は、シルト岩・粘板岩を削平した様相で、頁岩状の岩脈が露出し、西側は粘土層となる。中段から下段は軟質岩片を含む粘土層となる。

Ⅰ層　7.5YR3/3 褐色砂質シルト　表土
Ⅱ層　7.5YR4/3 褐色シルト　旧耕作土
Ⅲ層　7.5YR5/6 ～ 6 /3 褐色粘土またはシルト質岩　地山

2　検出遺構（図８～ 14）

調査区は南西側に傾斜する丘陵中にあり、大きく３段に造成されている。この段は人為的に地山を削り出したものかどうかは不明であるが、平坦面を伴った段状となる。参考程度であるが、過去の縄張り図（図 7）と照合すると、北側の本丸とされる平場から腰郭と推定されるなだらかな段が概ね合致する。ここでは便宜上、北側の高い方から低い方に向かい、１段目・２段目・３段目とする。

遺構は各段の平坦面に多くあり、土坑２基（ＳＫ 01・02）、掘立柱列１条（ＳＡ 01）、溝状遺構（ＳＤ 01）、柱穴 141 基（ＳＰ）を検出した。遺構番号は現地にて使用したものをそのまま用い、欠番もある。

ＳＫ０１土坑（図 10・15、写 5）

検出状況：調査区西側の３段目平坦面中に方形状の掘り込みを検出。検出は東側半分のみで、西側は調査区外にかかる。
規　　模：上端が約 380㎝×（130）㎝、深さは最大で約 50㎝。
埋　　土：粘土質でしまりのある褐色土を主体とする。底面には木炭粉が混入する。
出土遺物：陶磁器１点（図 15- 1 ）が出土。

ＳＫ０２土坑（図 10）

検出状況：調査区西側の１・２段目の段差直下に円形状の掘り込みを検出。検出は東側の一部のみで、西側は調査区外にかかる。
規　　模：上端が約 135㎝×（30）㎝、深さは最大で約 60㎝。
埋　　土：上層はシルト質の暗褐色土で、２層目は混土貝層となる。貝層は、暗褐色の土を含み、イガイ・イボニシ・アサリが観察された。下層は粘土質でしまりのある暗褐色土を主体とし、礫が多く含まれる。
出土遺物：なし。

ＳＡ 01 柱穴列（図 11・15、写３・5・6）

検出状況：調査区西側の３段目平坦面中の SP115・SP144・SP114・SP72 を対象とした。
造成段形に沿った北西 - 南東に延びる柱間３間（815㎝）の柱列。
柱間寸法は、SP115・SP144 間－約 170㎝（約５尺６寸）、SP144・SP114 間－約 210㎝（約６尺８寸）、SP114・SP72 間－約 190㎝（約６尺３寸）。
埋　　土：しまりのある褐色・にぶい褐色・暗褐色土を主体とする。SP72・115・144 は礫が多く含まれる。

出土遺物：SP114 より古銭３点（図 15- ９～ 11）陶磁器片１点（図 15- ２）。SP115 より古銭７点（図 15-12 ～ 18）が出土。

ＳＤ 01 溝状遺構（図８）

検出状況：調査区西側の１・２段目の段差直下に造成段に沿う状態で検出。西側はＳＫ 02 により破壊されている。東側が消滅しているのは、重機掘削の際にこの近辺を掘りすぎて溝・段が消滅したとの記録があり、溝は南東側にさらに続いたものとみられる。

規　　模：幅約 130㎝、深さは最大で約 60㎝。

埋　　土：不明。

出土遺物：なし。

ＳＰ柱穴群（図８・12 ～ 15、写３～6、表２）

検出状況：調査区は南西側に傾斜し、大きく３段に造成されている。各段に平坦面が造られ、柱穴はその平坦面に多く検出されている。本来は建物を構成する柱穴と思われ、配置が推測できるものもあるが柱穴群とした。また、柱穴ではない掘り込みも含まれていると思われる。規模・土質等は表２にまとめた。

出土遺物：SP66 より鉄滓１点、SP66 より鉄滓１点、SP93 より陶磁器片１点（図 15- ３）、SP104 より硯片とみられる研磨石片１点（図 15- ６）､SP117 より陶磁器片１点（図 15- ４と古銭１点（図 15-19）が出土。

３　出土遺物（図 15、写5・6）

１・２は中国産磁器である。１は漳洲窯、２は景徳鎮窯の染付腕とみられる。３～５は国産陶器である。

３は全体的に緑色の灰釉がかかりヒビ状になった瀬戸美濃大窯の丸皿、４は薄く釉薬がかかる瀬戸美濃大窯の丸皿、５は古瀬戸とみられ無釉の折縁の深皿である。１・２は 15 ～ 16 世紀代、４は 11 世紀代、３・５は 15 世紀後半とみられる。

６は片面が研磨状に滑らかな石片で硯片の可能性がある。７は磨面と敲面が、８は全体的に磨面がある。

９・10・12 ～ 19 は永楽通宝で、9・10 は２枚が、12 ～ 18 は７枚が接着した状態で出土した。17 にはワラ状の付着痕があり、ワラ状の紐で綴られていたとみられる。11 は文字が見えず不明である。

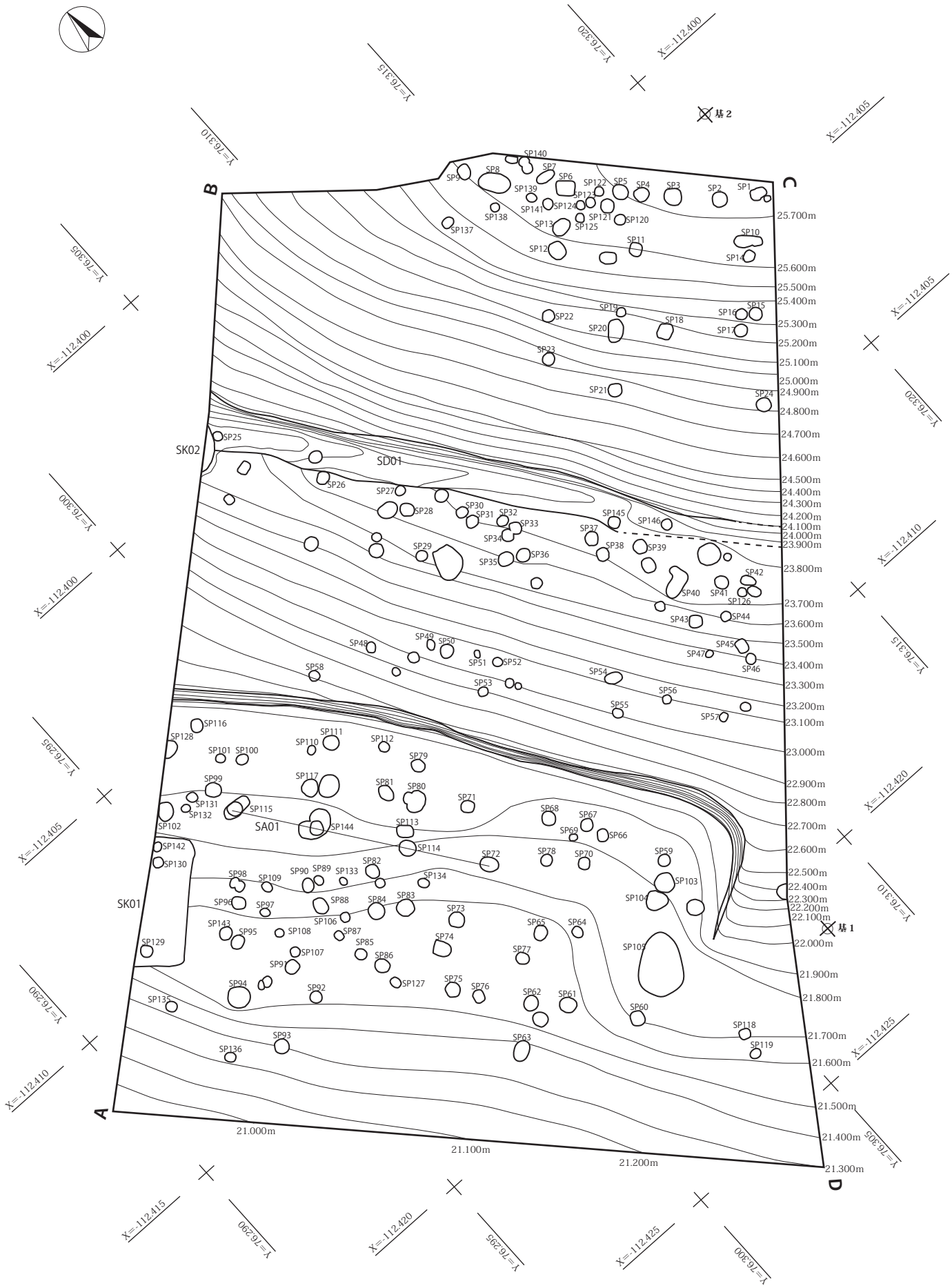
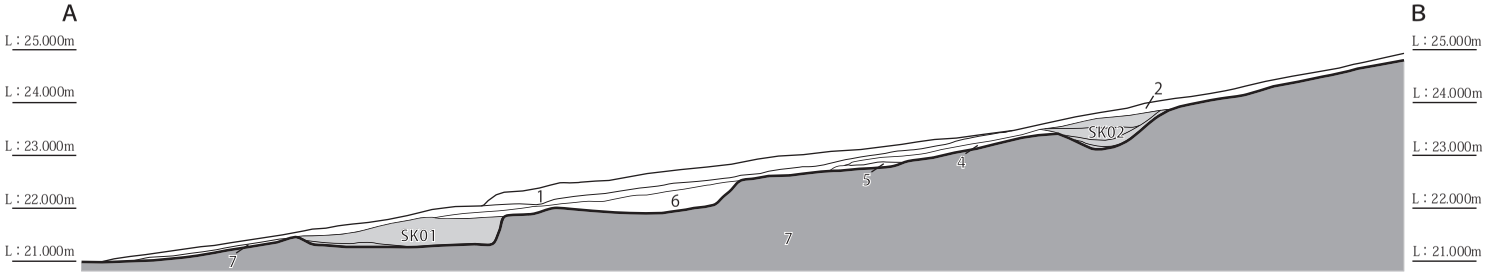
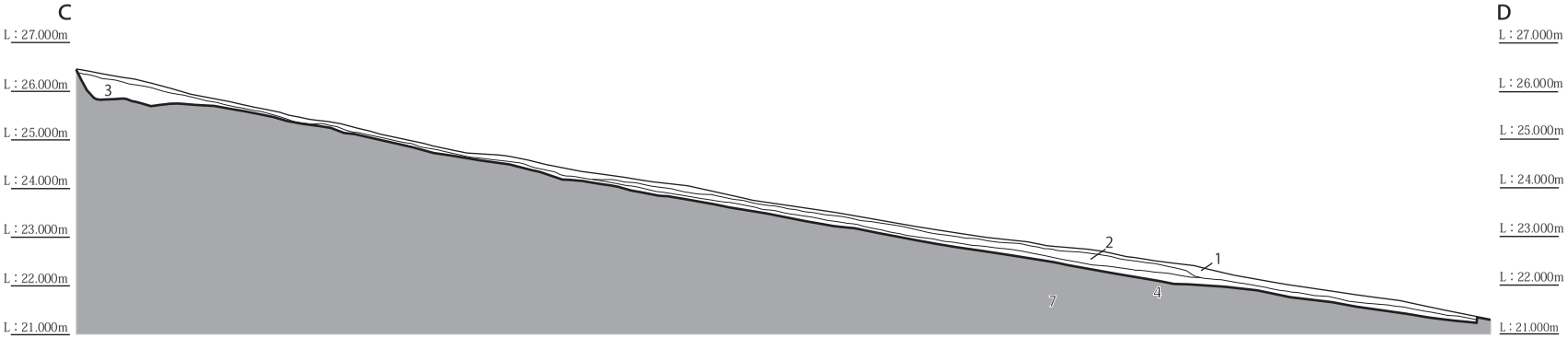


図８　蛇ヶ崎城跡　遺構配置図

西壁断面（A－B）



東壁断面（C－D）



1　7.5YR3/3　暗褐色　シルト質　砂若干混入　（表土・耕作土）
2　7.5YR5/6　明褐色　シルト質　黄色白青灰片混入
3　7.5YR3/4　暗褐色　粘土質　しまる　小礫混入多
4　7.5YR4/3　褐色　シルト質　しまる　小石 10％混入
5　7.5YR4/6　褐色　粘土質　しまる　（風化土層）
6　7.5YR3/4　褐色　粘土質　白色青色小石片 10％混入
7　7.5YR5/6 ～ 6/3　明褐色～にぶい褐色　粘土質　（地山）

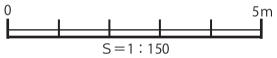


図９　調査区東・西壁断面図

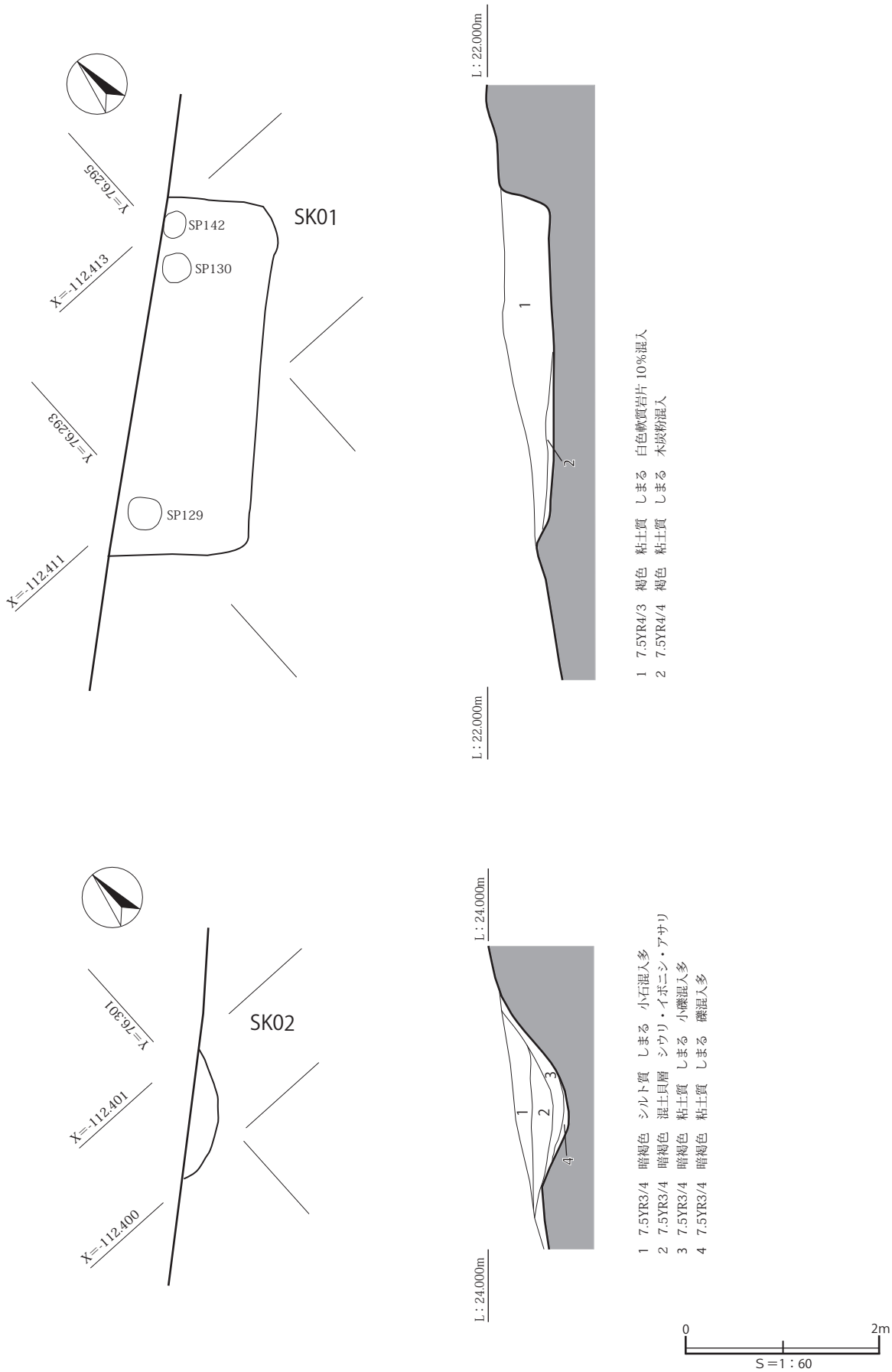
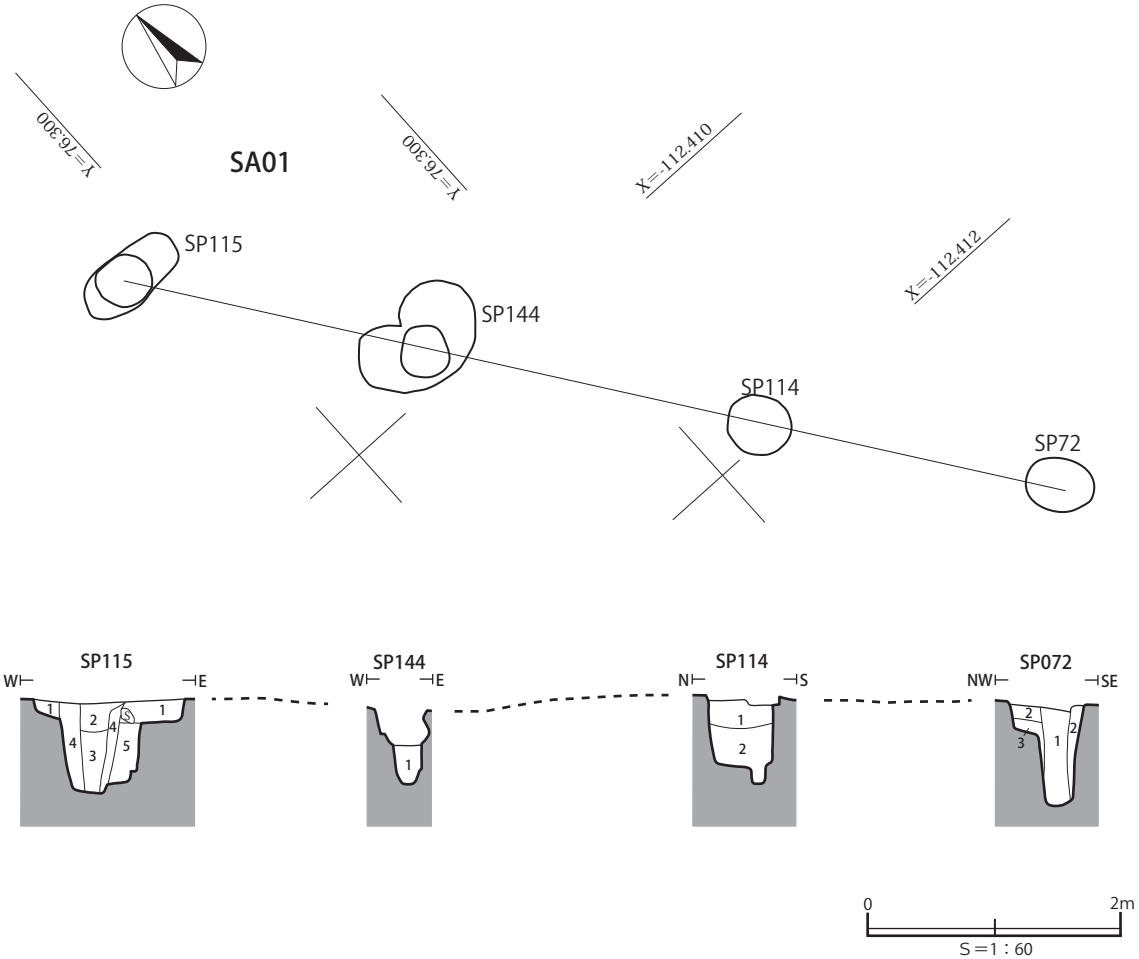
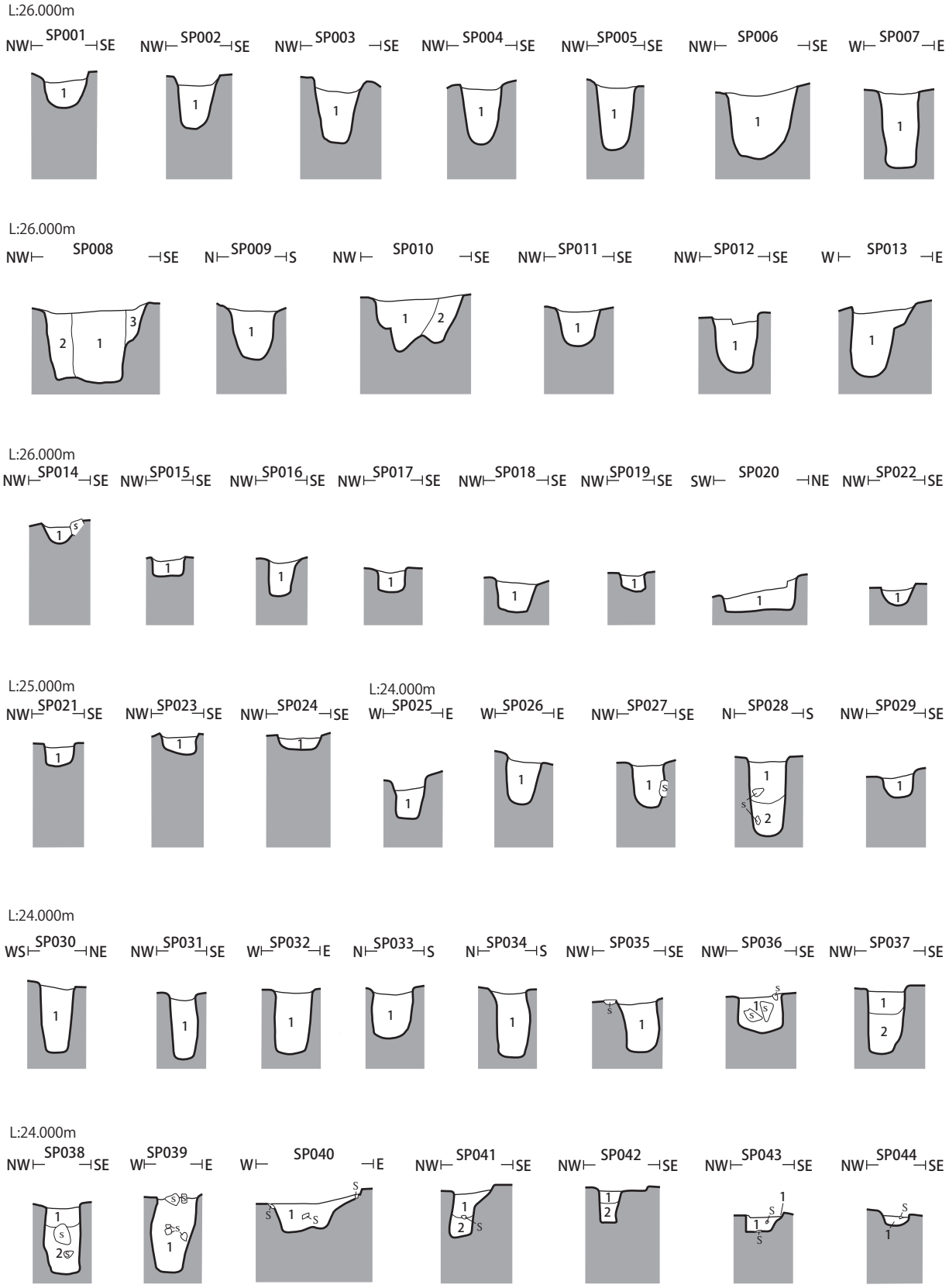


図 10　SK01・02 土坑



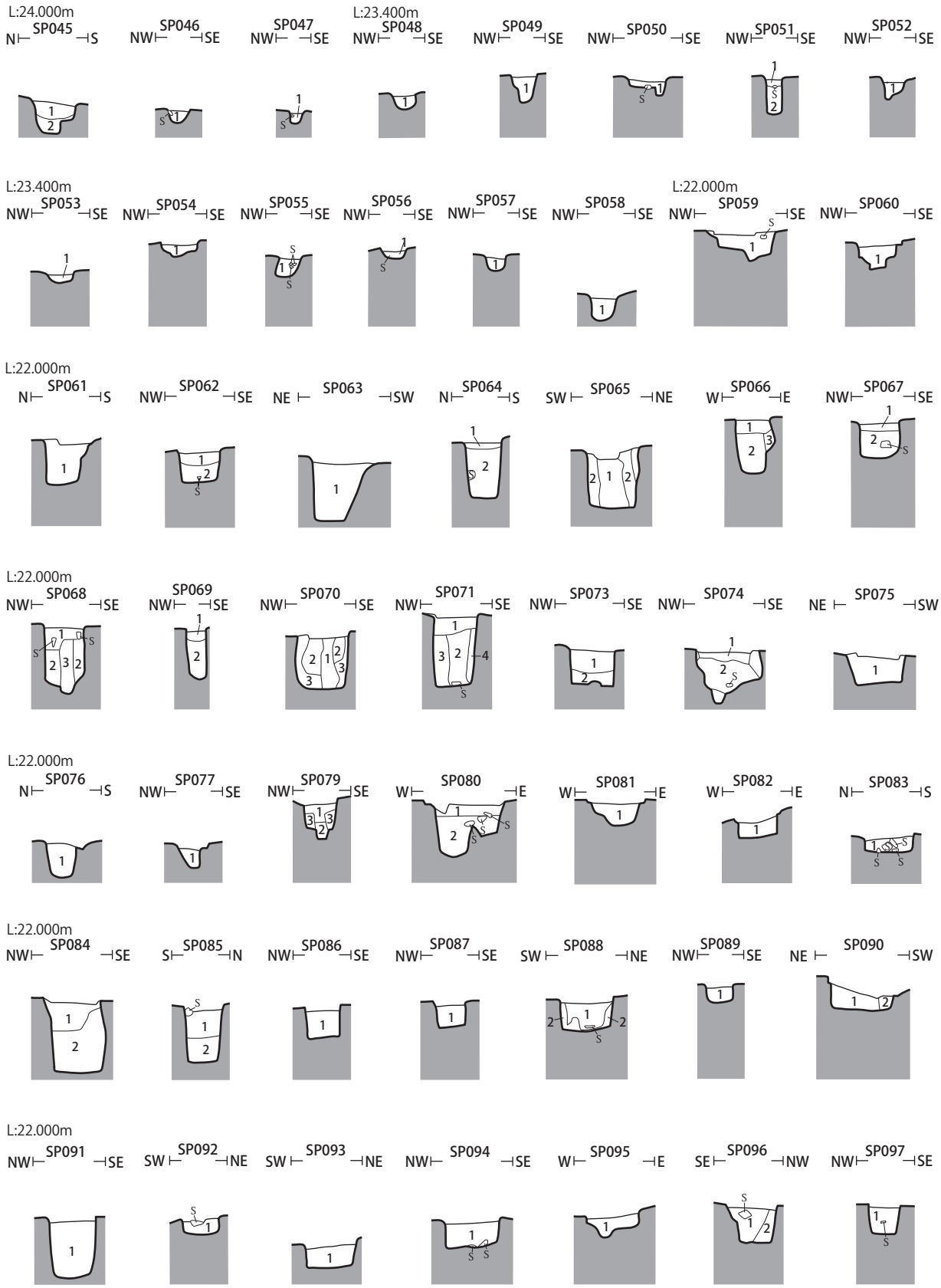
SP No.	径 (cm)	深さ (cm)	土層 No.	土色		土質・混入物		出土遺物 (図版番号)
72	61	82	1	7.5YR4/3～3/3	褐色～暗褐色	シルト	しまる、微小礫10%混入	
			2	7.5YR4/4～5/4	褐色～にぶい褐色	シルト	しまる	
			3	7.5YR4/4～5/4	褐色～にぶい褐色	シルト	白色微小礫10%混入	
114	57	70	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	しまる	古銭（15-9～11） 磁器片（15-2）
			2	7.5YR5/4～4/4	にぶい褐色～褐色	粘土	しまる	
115	68	73	1	7.5YR5/4～4/4	にぶい褐色～褐色	シルト	しまる	古銭（15-12～18）
			2	7.5YR3/4	暗褐色	粘土	しまる、白色微粒石片5%混入	
			3	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまり少、拳大石3ヶ混入	
			4	7.5YR4/6	褐色	粘土	しまる、φ1ｃｍ小石僅少	
			5	7.5YR5/6	明褐色	粘土	しまり少	
144	35	60	1	7.5YR5/4	にぶい褐色	粘土	しまる、微白石5～7%混入	

図 11　SA01 柱穴列



SP001 ～ 020・022 は L：26.000m，SP021・023・024 は L：25.000m，SP025 ～ 044 は L：24.000m

図 12　SP001 ～ 044 柱穴　断面図



SP045 ～ 047 は L：24.000m，SP048 ～ 58 は L：23.400m，SP059 ～ 071・073 ～ 077・079 ～ 097 は L：22.000m

図 13　SP045 ～ 071・073 ～ 077・079 ～ 097 柱穴　断面図

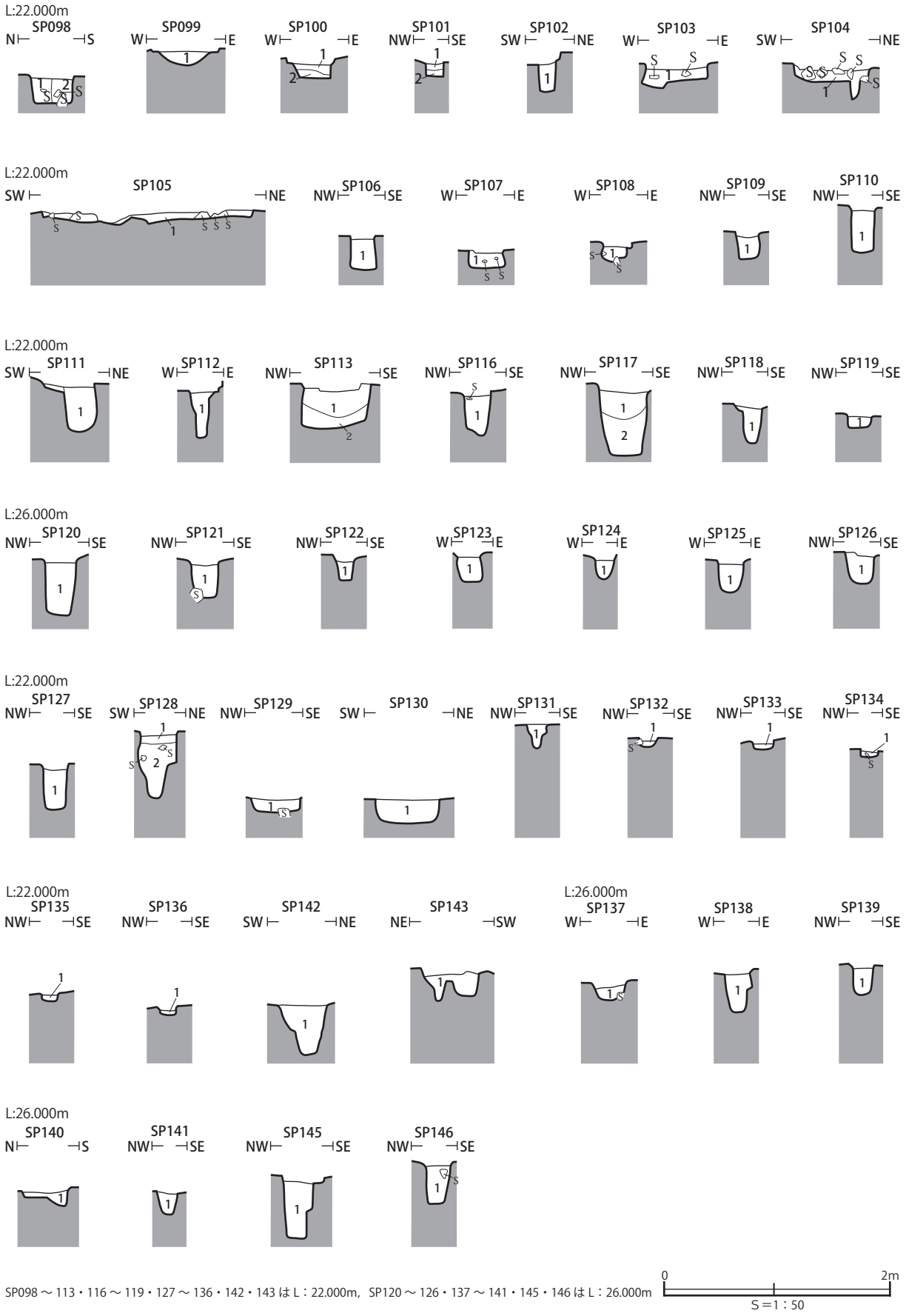


図 14　SP098 ～ 113・116 ～ 143・145・146 柱穴　断面図

表 2-1　SP 柱穴土層注記表（図 12 ～ 14 の土層に対応、欠番あり）

SP No.	径 (cm)	深さ (cm)	土層 No.	土色		土質・混入物		出土遺物（図版番号）〈重量〉
1	40	30	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまりあり、数センチの角礫多、木炭片数片混入	
2	38	46	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまりあり、角礫小片多	
3	44	57	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまりあり、拳大亜角礫数ヶ上層に混入	
4	38	47	1	7.5YR	暗褐色	シルト	しまりあり、小角礫多量混入	
5	36	60	1	7.5YR	暗褐色	シルト	しまりあり、小角礫多量混入	
6	61	64	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまりあり、小角礫多、木炭粒数ヶ、拳大弱亜角礫数ヶ混入	
7	34	68	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまりあり、木炭粒若干、小角礫極小	
8	91	66	1	7.5YR4/3	褐色	砂質シルト	しまりあり、黄色小角礫多、木炭片少々	
			2	7.5YR3/3	暗褐色	砂質シルト	しまる、黄色小角礫 1 層より少、木炭片混入	
			3	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまりあり、黄色小角礫混入	
9	39	48	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	しまりあり、上部 20cm まで白色礫、木炭粒目立つ	
10	76	48	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる	
			2	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	1 層より密、しまる、小角礫多、拳大弱亜角礫 1 ヶ混入	
11	38	34	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、小角礫多、木炭粒数ヶ混入	
12	42	50	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、小角礫若干混入	
13	54	64	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	しまる、上部 200m 黄色礫目立つ、小角礫混入少	
14	39	18	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる、小角礫少	
15	31	16	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、小角礫極多	
16	29	32	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、小角礫少、5cm 大の角礫 2 ヶ位混入	
17	27	19	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる、小角礫少、3cm 大角礫 1 ヶ混入	
18	36	29	1	7.5YR4/2	灰褐色	シルト	しまる、小角礫混入	
19	23	10	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	しまる、小角礫極少	
20	64	30	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	しまる、小角礫極多	
21	27	19	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、小角礫少	
22	29	18	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、小角礫少、木炭片 1、3cm 大角礫 1、3cm 大円礫 2 混入	
23	33	17	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、小角礫極多、やや大きい礫 2 ヶ混入	
24	38	13	1	7.5YR3/4	褐色	シルト	しまる、小角礫多	
25	31	40	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、小角礫少	
26	31	44	1	7.5YR4/3	褐色	粘土質シルト	しまる、小角礫少	
27	31	41	1	7.5YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	しまる、小角礫少、小円礫微少	
28	37	68	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる、小円礫（4 数 mm ～ 1cm）多量混入	
			2	7.5YR4/3	褐色	粘土質シルト	しまる	
29	30	25	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる、白色微小角礫多	
30	31	60	1	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる、小角礫混入少	
31	24	57	1	7.5YR4/3	褐色	粘土質	しまる、上位に小角礫混入多、中、下位は少	
32	36	55	1	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる、小角礫やや多	
33	37	44	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる	
34	32	59	1	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる	

表 2-2　SP 柱穴土層注記表（図 12 ～ 14 の土層に対応、欠番あり）

35	37	47	1	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる	
36	37	34	1	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる、小児頭大角礫 2 ヶより混入	
37	36	57	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる、小角礫多	
			2	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる	
38	31	62	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる、小角礫多	
			2	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる	
39	37	66	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、拳大以下の石数ヶ、小角礫少	
40	76	43	1	7.5YR4/4	褐色	シルト	しまる、小角礫混入	
41	36	47	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる	
			2	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる	
42	43	31	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる、小角礫多	
			2	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる	
43	34	16	1	7.5YR3/3	暗褐色	粘土	しまる、小角礫多量混入	
44	26	14	1	7.5YR4/4	褐色	シルト	しまる、小角礫混入	
45	41	33	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる、小角礫多	
			2	7.5YR3/3	暗褐色	粘土	しまる	
46	21	12	1	7.5YR4/3	暗褐色	シルト	しまる、白色角礫片多	
47	16	12	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる、白色角礫多	
48	25	17	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる、白色角礫片多	
49	23	25	1	7.5YR3/4	暗褐色	粘土質	白色角礫多	
50	38	18	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる	
51	19	34	1	7.5YR4/3	褐色 4/3、褐色		白色礫片少混入	
			2	7.5YR4/3	褐色			
52	25	20	1	7.5YR3/4	暗褐色		白色礫片多、木炭数mm 1 ヶ混入	
53	27	11	1	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる、白色礫片混	
54	35	14	1	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる	
55	24	19	1	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる	
56	25	10	1	7.5YR4/4	褐色	粘土質	しまる、白色礫片多	
57	19	15	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	しまる、白色礫片混入	
58	27	26	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、白色礫数ヶ混入	
59	54	26	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる、黄色土粒混入多	
60	38	27	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	しまる、黄白色石片 50%混入	
61	43	40	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	しまる、黄白色土粒 7 割位の部分に混入	
62	41	31	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	しまる、小礫 1 ～ 2 割混入	
			2	10YR4/4	褐色	シルト	しまる、小礫 1 ～ 2 割混入	
63	56	57	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	しまる、小角礫 5%混入	
64	34	54	1	10YR4/4	褐色	シルト	しまる、黄色礫 1 割弱混入	
			2	7.5YR4/3 ～ 3/3	褐色～暗褐色	シルト	しまる、微小礫僅少混入、木炭粒数ヶ混入	
65	50	54	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	しまる、明黄褐粘土粒 2%混入	
			2	10YR4/1	褐灰色	シルト	しまる、明黄褐粘土 15%混入	
66	32	50	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、黄色土 30%混入	鉄　滓〈33.8 g〉
			2	7.5YR4/4 ～ 4/6	褐色	粘土	しまる	
			3	7.5YR5/6 ～ 4/6	明褐色～褐色	粘土	しまる　掘り過ぎ地山	
67	38	36	1	7.5YR4/3 ～ 3/3	褐色～暗褐色	粘土	しまる	
			2	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる	
68	37	61	1	7.5YR4/4 ～ 4/6	褐色	粘土	しまる	
			2	7.5YR4/6	褐色	粘土	しまる	
			3	7.5YR4/6	褐色	粘土	しまりなし	
69	19	44	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる	
			2	7.5YR4/4 ～ 4/6	褐色	粘土	しまる	
70	46	50	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	やや疎	
			2	7.5YR4/4 ～ 4/3	褐色	粘土	しまる	
			3	7.5YR5/6 ～ 4/6	明褐色～褐色	粘土	地山に酷似（掘り過ぎ？）	

表 2-3　SP 柱穴土層注記表（図 12 ～ 14 の土層に対応、欠番あり）

71	40	64	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	しまる、黄色粘土粒 3%混入	
			2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	しまる、黄色粘土粒 1%以下混入	
			3	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	しまる、黄色粘土粒 10 ～ 5%混入	
			4	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	しまる、灰色粘土で 10 ～ 15%混入	
73	42	35	1	7.5YR4/4 ～ 4/3	褐色	シルト	しまる	
			2	7.5YR6/8	橙	粘土質シルト	しまる、褐色土 10%混入	
74	55	47	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる	
			2	7.5YR6/6	橙色	粘土	しまる、褐灰色土 5%混入	
75	53	28	1	7.5YR4/4	褐色	シルト	しまる	
76	36	32	1	7.5YR4/4	褐色	シルト	しまる、3ｃｍ弱礫数ヶ、ミリ単位礫 20%余混入	
77	29	22	1	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる、微小礫混入	
79	31	38	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、1ｃｍ弱礫若干混入	
			2	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる、1ｃｍ土円礫 20%混入	
			3	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、灰白色微小岩片 50%余混入	
80	70	49	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、灰白色微細岩片若干混入	
			2	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	しまる、明色微細岩片若干混入	
81	52	24	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、軟質岩片（φミリ～1ｃｍ）少々混入	
82	41	26	1	7.5YR4/4	褐色	シルト	しまる、φ1ｃｍ弱岩片上部に少々混入、木炭微粒僅少散在	
83	50	17	1	7.5YR4/6 ～ 4/3	褐色	粘土	しまる	鉄滓〈4.3 g〉
84	50	66	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる	
			2	10YR4/4	褐色	粘土	しまる	
85	36	51	1	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる、石大小 2 ヶ混入	
			2	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土	しまる	
86	31	30	1	7.5YR4/6	褐色	粘土	しまる、微細石片 30%混入、木炭微粒数ヶ混入	
87	30	24	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる	
88	49	32	1	7.5YR4/4	褐色	シルト	しまる、φ1ｃｍ位の小礫 20%混入	
			2	7.5YR6/6	橙色	粘土	しまる（地山に酷似）	
89	25	16	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる	
90	61	32	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	しまる、φ1ｃｍの礫、5%混入	
			2	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、小石の混入 5%位混入	
91	42	53	1	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる、木炭微粒僅少、φ1ｃｍ以下の礫 5%位混入	
92	36	17	1	7.5YR3/3	暗褐色	粘土	しまる	
93	47	27	1	7.5YR3/4	暗褐色	粘土	しまる、小石 10%余混入、木炭粒少々	陶器片（15-3）
94	51	27	1	7.5YR4/4 ～ 5/4	褐色～にぶい褐色		小石数ヶ、微小礫 5%以下、木炭微粒僅少	
95	48	32	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、3ｃｍ位の石 5%混入	
96	45	35	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、白色微小石 10%混入	
			2	7.5YR5/4 ～ 5/6・7.5YR4/4	にぶい褐色～明褐色・褐色	粘土	しまる、モザイク状	
97	28	27	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、φ1ｃｍ以下の石 5%未満混入	
98	42	28	1	7.5YR4/4 ～ 3/4	褐色～暗褐色	シルト	しまる	
			2	7.5YR4/4 ～ 3/4・7.5YR6/6	褐色～暗褐色・橙色	シルト	しまる、混在	
99	48	20	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる	

表 2-4　SP 柱穴土層注記表（図 12 ～ 14 の土層に対応、欠番あり）

100	44	19	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、灰白色岩片 20%混入	
			2	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、灰白色岩片 20%混入	
101	24	25	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、灰白色岩片 50%混入	
			2	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、灰白色岩片 30%混入	
102	21	36	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、微小礫 5%混入	
103	57	24	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、灰白色岩片 5%混入	
104	70	33	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、人頭大～掌大の石 10 ヶ余混入	硯　片 ？（15-6）
105	191	14	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト		
106	24	32	1	7.5YR4/6 ～ 4/4	褐色	粘土	しまる、灰白色微小石片僅少	
107	32	18	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、白色微小石片僅少	
108	28	22	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、白色微小石片僅少、木炭粒 1 ヶ混入	
109	23	26	1	7.5YR4/4	褐色	シルト	しまる	
110	25	43	1	7.5YR4/4 ～ 3/4	褐色～暗褐色	粘土	しまる、微粒礫 20%混入	
111	48	48	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、白色微小石片 10%混入	
112	27	46	1	7.5YR3/3 ～ 3/4	暗褐色～褐色		φ１ｃm位の石片 40%混入	
113	62	41	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	しまる、白色石片 30%混入	
			2	7.5YR5/4 ～ 4/4	にぶい褐色～褐色	粘土	しまる	
116	28	42	1	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる	
117	46	65	1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	しまる、白色微粒石片 30%混入	陶　器　片（１５-４）古銭（15-19）
			2	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、白色微粒石片 10%以下混入	
118	26	36	1	7.5YR3/4	暗褐色	粘土	しまる、黄色土粒僅少上面に混入	
119	23	14	1	7.5YR4/4 ～ 4/3	褐色～暗褐色	粘土	しまる	
120	31	54	1	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる、白色小石片 10%以下混入	
121	29	37	1	7.5YR3/4	暗褐色	粘土	しまる、ミリ単位微小石片 10%位混入	
122	21	23	1	7.5YR3/4	暗褐色	粘土	しまる	
123	24	28	1	7.5YR3/4	暗褐色	粘土	しまる、微礫 10%混入	
124	19	23	1	7.5YR3/4	暗褐色	粘土	しまる、微礫 10%混入	
125	29	30	1	7.5YR3/4	暗褐色	粘土	しまる、微石片 15%位混入	
126	28	29	1	7.5YR4/4	褐色	シルト	しまる、微石片 20%混入	
127	24	42	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	3 mm大木炭粒 1 ヶ、白色微礫僅少	
128	33	60	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	しまる、木炭粒数ヶ、微礫 5%混入	
			2	7.5YR4/6	褐色	粘土	しまる、5 ～ 6 ｃm礫数ヶ、微礫 5%混入	
129	46	14	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、白色微礫 20%混入	
130	59	23	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、白色微石 20%混入	
131	19	22	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる	
132	16	8	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	しまる、白色微石 5%弱混入	
133	21	10	1	7.5YR4/4 ～ 3/4	褐色～暗褐色	粘土	しまる	
134	17	16	1	7.5YR4/4 ～ 3/4	褐色～暗褐色	粘土	しまる、木炭片数ヶ混入	
135	17	9	1	7.5YR4/4	褐色	粘土	白色微石 5%以下混入	
136	17	10	1	7.5YR3/3	暗褐色	粘土	しまる、微石片僅少	
137	33	19	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、2 ～ 3 ｃm大石片 10%混入	
138	24	39	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、微石片 10%混入	
139	22	29	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、微礫 10%弱混入	
140	41	17	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	しまる、白微石 5%以下混入	
141	19	21	1	7.5YR4/4	褐色	シルト	しまる、黄と白色微石 10%混入	
142	44	48	1	7.5YR5/6 ～ 4/6	明褐色～褐色	粘土	しまる	

表 2-5　SP 柱穴土層注記表（図 12 ～ 14 の土層に対応、欠番あり）

143	52	29	1	7.5YR3/4	褐色	粘土	しまる、φ 3 mmの明褐色粘土粒 30%混入	
145	37	56	1	7.5YR4/3	褐色	粘土	しまる、φ 1 ｃm弱小石 1%、木炭粒若干混入	
146	27	38	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	しまり 1 ｃm弱小石 10%弱混入	

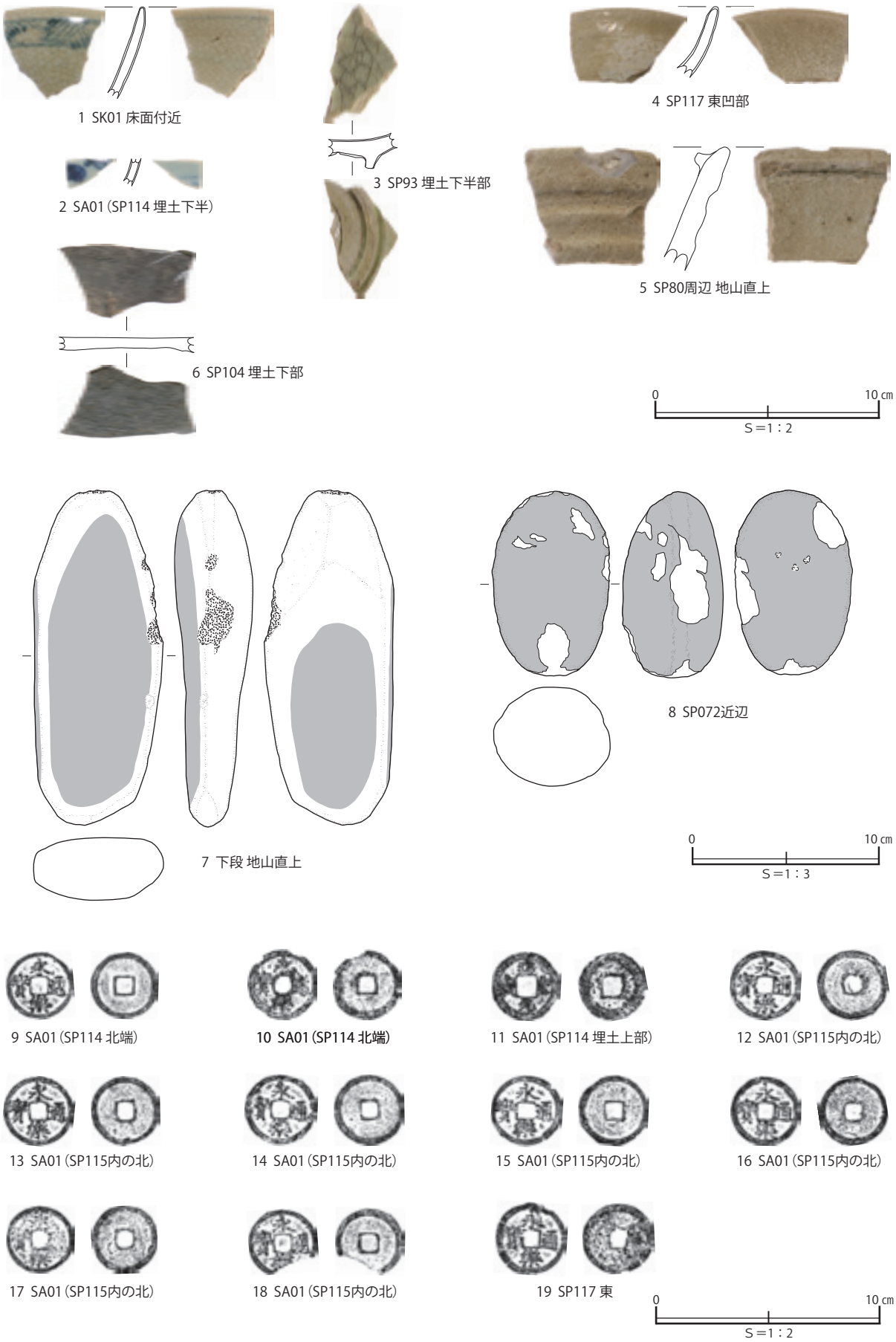

1 SK01 床面付近
2 SA01（SP114 埋土下半）
3 SP93 埋土下半部
4 SP117 東凹部
5 SP80周辺 地山直上
6 SP104 埋土下部
0
10 cm
S＝1：2
7 下段 地山直上
8 SP072近辺
0
10 cm
S＝1：3
9 SA01（SP114 北端）
10 SA01（SP114 北端）
11 SA01（SP114 埋土上部）
12 SA01（SP115内の北）
13 SA01（SP115内の北）
14 SA01（SP115内の北）
15 SA01（SP115内の北）
16 SA01（SP115内の北）
17 SA01（SP115内の北）
18 SA01（SP115内の北）
19 SP117 東
0
10 cm
S＝1：2

図 15　出土遺物

Ⅴ　まとめ

今回の調査では、平坦面を伴った段状の構造と、その各段にある平坦面から、土坑２基（ＳＫ01・02)、柱穴列１条（ＳＡ01)、溝状遺構１条（ＳＤ01）柱穴141基（ＳＰ）を検出した。

蛇ヶ崎城跡の既存の調査・研究は、過去に紫桃（1972）や岩手県教委（1986）によって地表面観察に基づく縄張りの検討がされ、また、古文書の記載による城主の推定がある。両者によって指摘されている縄張りの特色として、

1)　三方は海に面し、陸続きの丘陵を空堀で切断し、館城を独立させる。
2)　主郭はこの空堀に接し、半島中で一番高い場所にあり、長軸約50～60ｍの楕円形の平場である。
3)　東南部と南西部にはなだらかな段があり腰郭と推定できる。
4)　半島の先端部には八幡神社が鎮座し東側は断崖となり海に落ちる。この一帯が二の郭となる。
5)　西面には腰郭が付き、半島先端部にも狭い平場がある。
6)　主郭・二の郭間の西側には井戸がある。

と指摘されている。

今回は腰郭とされる段状が地山によって形成されており、過去の縄張り図との照合（図７）でも、概ね地形が合致している。また、この各段の平坦部には多数の柱穴（ＳＰ）や方形状の掘り込み（ＳＫ01)、溝状遺構（ＳＤ01）があることが分かった。

出土遺物は、11世紀代・15世紀代の陶磁器類・銭貨が確認され、少量ではあるが鉄滓の出土により小鍛冶を行っていたこともうかがわれた。遺物は、いずれも３段目から出土している。銭貨はＳＡ01柱穴列の柱穴から出土していることから、今回は柱穴列として扱ったが、掘立柱建物であった事が想定され、各平坦部にある多数の柱穴も建物の痕跡であった事が考えられる。

参考・引用文献

陸前高田市史編集委員会　1995 『陸前高田市史　第三巻　沿革編 (上)』
岩手県　1961 『岩手県史　第二巻　中世篇 (上)』
紫桃正隆　1972 『史料　仙台領内古城館・第１巻』宝文堂
岩手県教育委員会　1986 『岩手県中世城館跡分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第82集
陸前高田市教育委員会　2015 『本宿館（横田城）跡発掘調査報告書』陸前高田市文化財調査報告書第29集
大船渡市教育委員会　2015 『岩手県大船渡市小出館遺跡　平成25年度緊急発掘調査報告書』
(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2015 『花館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第638集
(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2018 『高田城跡跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第691集

写 真 図 版

蛇ヶ崎 全景

調査終了 全景

図版1　蛇ヶ崎全景・調査終了全景

調査終了 近景 （南東から）

調査終了 近景 （西から）

調査終了 近景 （南西から）

図版2 調査終了近景

調査前状況 （南西から）

調査前状況 （南東から）

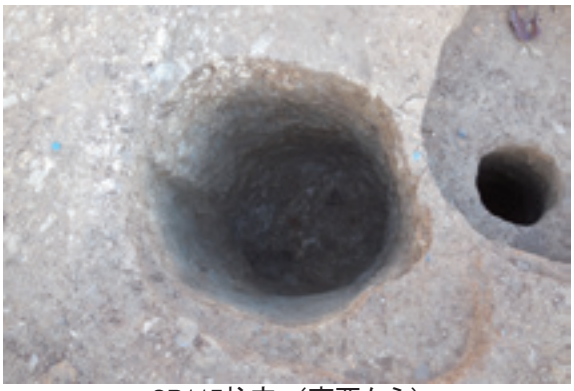
SA001柱穴列（SP114柱穴）（南西から）

SA001柱穴列（SP115柱穴）（南西から）

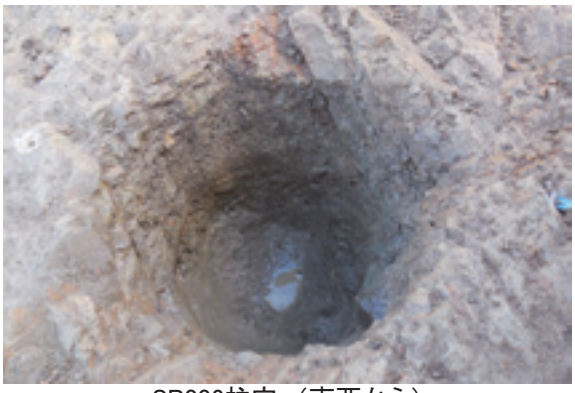
SA001柱穴列（SP144柱穴）（南西から）

SP093柱穴 （南西から）

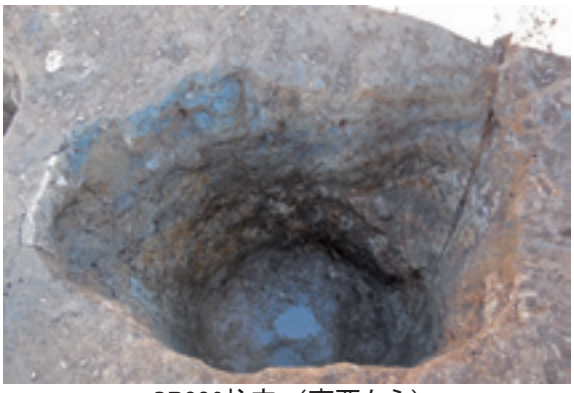
SP104柱穴 （南西から）


SP117柱穴 （南西から）

図版3 調査前状況・SA01柱穴列・SP柱穴


SP002柱穴 （南西から）

SP005柱穴 （南西から）


SP006柱穴 （南西から）

SP008柱穴 （南西から）

SP028柱穴 （南西から）

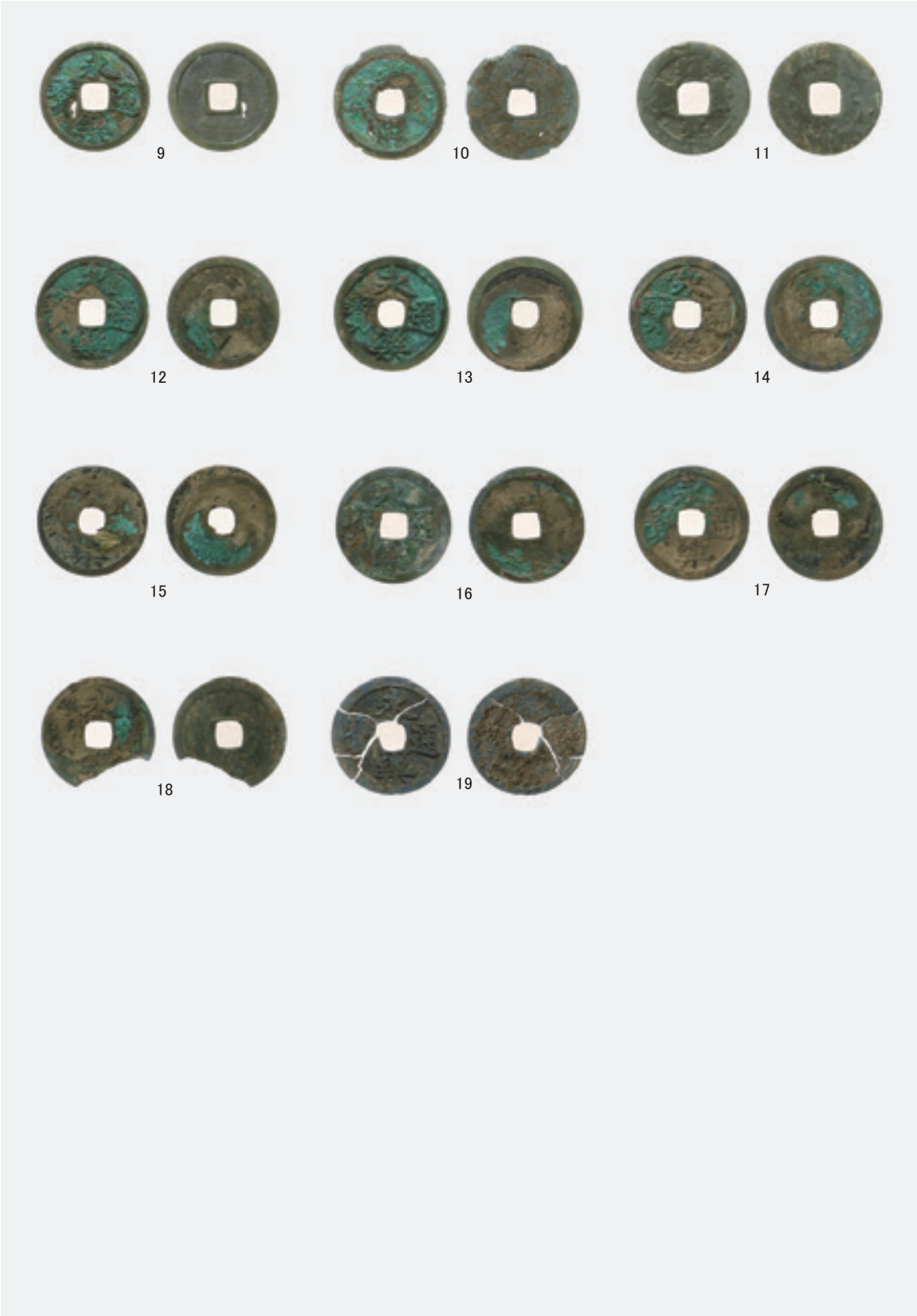
SP031柱穴 （南西から）

SP037柱穴 （南西から）

SP039柱穴 （南西から）

図版4　SP柱穴

図版5　出土遺物1

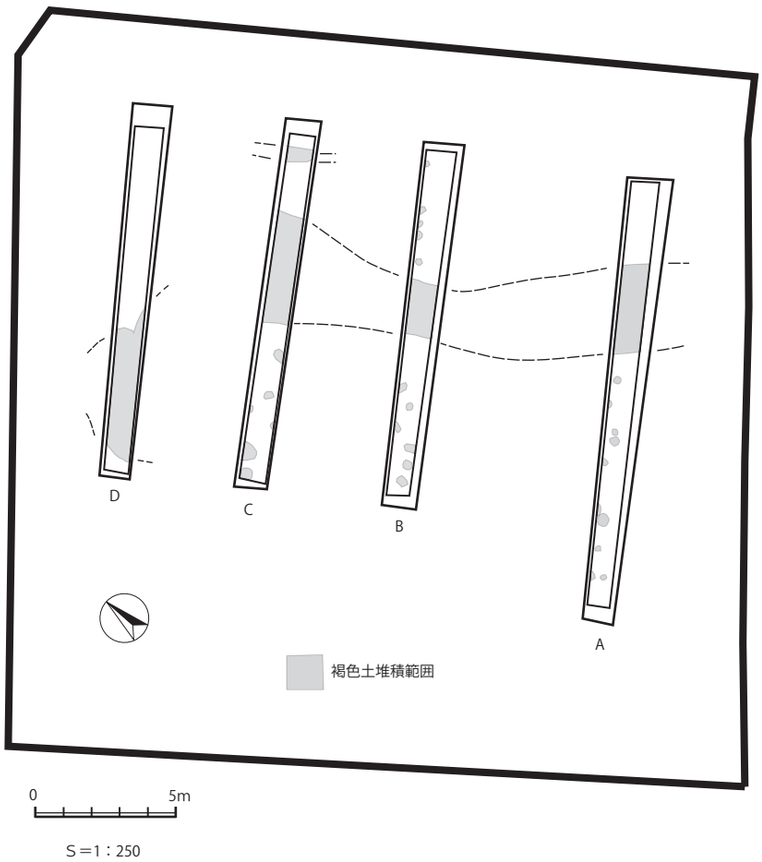


図版6　出土遺物2

附編：平成 28 年度の試掘調査の成果

所 在 地：岩手県陸前高田市小友町字谷地館 188・189 番 1
対象面積：約 638㎡　調査面積：56㎡
調査原因：個人住宅建築に伴う宅地造成
調査期間：平成 28 年 6 月 3 日から 7 月 11 日
調査概要：調査区内に A ～ D の 4 本のトレンチを設定し、重機で表土除去後、人力で精査し遺構検出を行った。その結果、A ～ C トレンチで小穴・溝状の褐色土の堆積を確認、D トレンチでは東半部に灰白色粘土が混入する褐色土の堆積が見られた。確認された各所の褐色土堆積について、小穴状のものは半裁、溝状のものはサブトレンチを設け掘削し精査した。D トレンチの褐色土の堆積範囲はさらに掘り下げ精査を行った。小穴状の掘り込は深さ 20 ～ 30㎝程度で、配列も規則性が認められず伴出遺物無く、城館に関連する構造物である可能性は低い。溝状の褐色土域については、伴出遺物もなく断面形状から人工的な遺構とは考え難く自然流路の可能性が高い。D トレンチの褐色土範囲は、灰白色粘土、焼土、木炭粒が多く含まれるが伴出する遺物もなく、不明瞭な土層堆積状況などから近現代の攪乱と判断した。

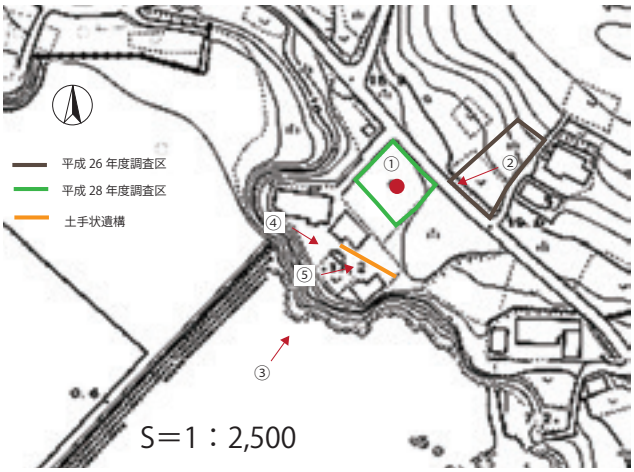
以上の調査結果から、調査対象範囲内に遺構が存在する可能性は極めて低く本調査の必要はないと判断した。



平成 28 年度試掘調査区全体図

民家敷地内の土手状遺構について

試掘調査中に周辺を踏査したところ、調査区域の南西に隣接する民家敷地内に、蛇ヶ崎城跡の土塁の可能性がある土手状遺構を確認した。土手状遺構は、家屋建築によって一部破壊されていると思われるが、高さ約 2m、基部幅約 4 ～ 5m、長さ約 20m ほどで、民家敷地中央から南東方向へ伸びている。頂部は南東方向へ向かって低くなり傾斜している。以前は、家屋部分にも土手が存在したとの事である。空堀の掘削排土や周辺の整地排土を積み上げ築いた土塁と思われる。



調査区・土手状遺構と写真撮影方向

①平成 28 年度試掘調査区上空から

②平成 26 年度調査区上空から南西方向

③平成 28 年度調査区南西海上から北東方向

④民家敷地内の土手状遺構断面

⑤民家敷地内を北西から南東方向に延びる土手状遺構

抄　録

ふりがな	なかにしいちいせき・じゃがさきじょう（やちだて）あとはっくつちょうさほうこうこくしょ
書名	中西Ⅰ遺跡・蛇ヶ崎城（谷地館）跡発掘調査報告書
シリーズ名	陸前高田市文化財調査報告
シリーズ番号	第 36 集
編著者名	鈴木めぐみ　増崎勝仁
編集機関	陸前高田市教育委員会
所在地	〒 029-2292　岩手県陸前高田市高田町字鳴石 42 番 5　　TEL0192-54-2111
発行年月日	2020 年 12 月 25 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積
		市町村	遺跡番号				
なかにしいち 中西Ⅰ	いわてけんりくぜんたかたし 岩手県陸前高田市 おともちょうあざなかにし 小友町字中西 32 番地	03210	NF68-2267	39° 00' 49″	141° 69' 58″	平成 23 年 7 月 25 日～ 8 月 11 日	約 210㎡
じゃがさきじょう （やちだて） 蛇ヶ崎城 （谷地館）	いわてけんりくぜんたかたし 岩手県陸前高田市 おともちょうあざやちだて 小友町字谷地館 122 番地 1、188・189 番地 1	03210	NF79-1076	38° 98' 29″	141° 71' 59"	本調査 2014 年 10 月 16 日 ～ 11 月 21 日 試掘調査 2016 年 6 月 3 日～ 7 月 11 日	974㎡ 56㎡

調査原因	宅地造成				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中西Ⅰ	散布地	縄文・平安	なし	縄文土器片 土師器片 須恵器片	過去の果樹園造成に伴う地形改変が著しく、遺物包含層や遺構は破壊されたと思われる。 遺物の出土はみられるものの遺構は検出されなかった。
蛇ヶ崎城 （谷地館）	城館跡	中世	土坑　2 基 溝状遺構　1 条 柱穴　141 基	陶磁器片 銭貨 鉄滓 硯片 磨石	本調査では、地山を段状に整地した腰廓を検出し、整地内の多数の柱穴を調査した。柱穴は城館に付属する構造物であったと推定される。 試掘調査では遺構が存在する可能性は極めて低いが、周辺の踏査によって城館に付属した土塁の可能性が高い土手状遺構を確認した。

陸前高田市文化財調査報告　第36集
中西Ⅰ遺跡・蛇ヶ崎城跡（谷地館）発掘調査報告書
印刷　令和２年１２月１０日
発行　令和２年１２月２５日
編集・発行　　陸前高田市教育委員会
〒029－2292　岩手県陸前高田市高田町字鳴石42番地5
電話　0192－54－2111
印刷　川口印刷工業株式会社